

▲兩院

政府は矢田總領事へ訓令を發した結果
山東撤兵時期明示の支那側の要求は黙殺し交渉
と、但し關稅問題
送つた

昨日現在の貴族院の右
別は貴族院の右
△研究会一四
△同成會二九
庚酉俱樂部四
△中立三三八
衆議院では
△政友會二二
○△新黨俱樂部
新會七△明政
新一△無産八
△議員四
政府は對支外交
大問題に就て騰
信を有して居ら

カナダへ
一週間打通す
ます

豊見城市史だより Vol.13

「死骸は明かに適當な葬儀社の手に依り薬漬けにされた證據が充分あり普通何處の葬儀社でも行ふやうな風に左腕の一部を切開して防腐液を注射し再び縫つた形跡があるが人の出来る業で立會ひの専門家として又死体は相れたと信せらるべ

◇警察でへても他殺体を完び發掘し何の道税るやうな所へワザて送つてくる如き

「と漏らしてゐ間以上も要したが通中新西院で検屍マクイウエン氏の下に開廷さるべさ検屍裁判で發表する事になつた

死体ご

久松の關係 同縣人の推察

カナダで消えた座安久松の行方
豊見城村から最初に海外へ渡航した人たち
「高良同志会」結成について
世界のトミグスクンチュウ歓迎会
『移民編』発刊後に寄せられたお便り紹介

金齒か何より諸捕
從弟には旅券なし
同縣人當山氏の漏した話

座安久松氏の從弟で同じく長い間
レスブリツヂの炭坑に就働してゐ
前彼地で發
日に附せら
旅券
同縣人
を語つた
入齒を入
が記憶す
が沖繩に
をに入れて
は揃ひ奥
どなつて
で死体は
ではない

かと察せられず、松は確大正
十年頃何かに失敗して發狂し其
筋へ收容されたが一時柔順にな
つたのでレスブリツヂのヘッド
ヴィルの自宅に連れて來られた
ときナイフで切腹し、それも僅
二四寸でしたが本人が暴れ廻り

卅七歳頃でしたるう、從兄の久松氏は眞面目なときは人に害を加へるとか人の恨を買ふとか云ふ性質の人間でなく人に殺されるやうな原因が好きなで飲むとグーたものです」
久松が昨年レスブリツヂを立つ時は多くの知人の贈り金や土産物金を預かつたも、自分の所持品を一個に詰めてシー・ツラらしく去る金ものトランク二箱、一つはバーナビの白人ベツツ氏が買つて事件の發端をみたが
他の一個は
何人が持ち
歸つたか

豊見城市教育委員会文化課

るたか今朝までのところ判明して
るたか今朝までのところ判明して

世界のトミグスクンチュ歓迎会フォトアルバム

第1回 平成2年(1990)8月24日開催

アメリカ本土4名、ハワイ3名、ブラジル9名、ポリビア2名、ペルー3名
合計21名が世界各国より参加!



第1回世界のトミグスクンチュ歓迎会(1990.8.24)



写真はもっとあるよ!

全ての写真はココからダウンロードできます!のぞいてみてね。

URL→<https://photos.app.goo.gl/AXSeeOE0DX4ZerJm2>

第2回 平成7年(1995)11月17日開催
アメリカ1人、ブラジル7名、合計8名が世界各国より参加!



第2回世界のトミグスクンチュ歓迎会(1995.11)



(2)

大きな写真じゃないと顔も見えないさ～、という方。
ココから写真をダウンロードできます!写真もりだくだよ～。
URL→<https://photos.app.goo.gl/2w1H1PQh9Gecwce2>

第3回 平成13年(2001)11月2日開催
 アメリカ14名、ブラジル7名、合計21名が世界各国より参加!



第3回世界のトミグスクンチュ歓迎会(2001.11)



(02)



参加者の顔写真も見られるよ。

海外のトミグスクンチュを見てみよう!

URL→<https://photos.app.goo.gl/G8sZXgU46voWowys1>

第4回 平成18年(2006)10月13日開催。
アメリカ本土8名、ハワイ5名、ブラジル8名、ボリビア1名
合計22名が世界各国より参加!



第4回世界のトミグスク



ンチュ
歓迎会(2006.10.13)



第4回目からは写真がた〜くさん!

家族で見た方がいいよ〜。

URL→<https://photos.app.goo.gl/F0Bv0pdep4aYunkB3>

第5回 平成23年(2011)10月14日に開催
 アメリカ、ニューカレドニア、ブラジル、ボリビア 合計39名が世界各国より参加!



第5回世界のトミグスクンチュ歓迎会(2011.10.14)



0.14



第5回目からは、各国から帰って来たトミグスクンチュも多くなっているよ～。だからみんなに見せてね!

URL→<https://photos.app.goo.gl/V57Xx0ZKbLh3MXI22>

第6回 平成28年(2016)10月28日開催
アメリカ本土・ハワイ72名、カナダ7名、ブラジル23名、ニューカレドニア5名 合計107名が世界各国より参加!





第6回世界のトミグスクンチュウ



(828)



過去最多の107名が参加!87歳~0歳までのトミグスクンチュウが勢ぞろい。迫力満点の写真はココから。

URL→<https://photos.app.goo.gl/fveQhlfJhKhSa603>

「世界のトミグスクンチュ歓迎会」の写真について

第1回～第6回のトミグスクンチュ歓迎会の写真は、QRコードもしくはULRからアクセスすると全て見ることができます。この写真は、豊見城市秘書広報課及び文化課が撮影したものです。市民のみなさま及び海外在住のトミグスクンチュのみなさまが、親族との再会や家族の記念の1ページとして、また沖縄での思い出として楽しんでくださるようご提供いたします。



なお、写真を印刷物などに利用したい場合は、キャプションに下記の所蔵先を記述して使用してください。また、合わせて文化課までご連絡ください。

・記述例 豊見城市教育委員会文化課所蔵

Photo by Tomigusuku city division of bunka

☎ : (098) 856-3671 / FAX: (098) 856-1215

✉ : bunka-g●city.tomigusuku.lg.jp (●=@)



目次

世界のトミグスクンチュウ歓迎会フォトアルバム

世界のトミグスクンチュウ歓迎会	1
はじめに	7
座安久松、座安松について	7
座安松のカナダ到着後の動き	8
座安久松のカナダ到着後の動き	8
『大陸日報』の記事について (座安久松、座安松に関する記事のみ記載)	10
座安久松と羽出美留同志会	19
カナダ初期移民のその後	20
豊見城村から最初に海外へ渡航した人たちのその後	22
ハワイに存在している「高良同志会」の結成について	26
調査で収集した写真	27
ルーツ探しに『移民編』を利用する方法	49
『移民編』の編集集中に行ってきたこと	56
『移民編』への感想紹介	60
『豊見城市史』、「市史だより」の紹介	63

奥付

凡例

- ・文章中での人名及び資料寄贈者については、敬称を略した。

世界のトミグスクンチュ歓迎会

平成 28 年 (2016)、「第 6 回 世界のウチナンチュ大会」が開催された。各国から沖縄にルーツを持つ 2～5 世らが多数参加し、10 月 30 日が「世界のウチナンチュの日」に制定されたのも記憶に新しい。

豊見城市では、ウチナンチュ大会期間中、海外から帰って来た豊見城をルーツに持つ子弟たちを招待して「世界のトミグスクンチュ歓迎会」を開催している。この歓迎会も平成 28 年 (2016) で第 6 回目を迎えており、ここで今までの歓迎会の様子を紹介する。

第 1 回

第 1 回目は平成 2 年 (1990) 8 月 24 日に開催された。アメリカ本土 4 人、ハワイ 3 人、ブラジル 9 人、ボリビア 2 人、ペルー 3 人、計 21 人が参加。歓迎会では、宇豊見城の「宜保マウロファミリーバンド」による演奏や村子ども会によるエイサー、そして最後はカチャーシーでフィナーレを飾った。豊見城村と世界のウチナンチュネットワークづくりの一環として、宇座安の瀬長勉 (アラスカ在) をはじめ 6 人に「ふるさと特派員認証」が贈られた。



第2回

第2回目は、平成7年（1995）11月17日に開催された。ブラジルから7人、アメリカ本土から1人、計8人が参加。歓迎会では、英語とポルトガル語を字豊見城の宜保エウザが行い、琉球舞踊、空手演武などが行なわれた。字渡嘉敷の赤嶺尚由（ブラジル在）が代表挨拶を行い「現地でも沖縄のイジャーグラー精神が受け継がれています」と、ブラジルでの様子を語り会場からは温かい拍手をいただいた。



第3回

第3回目は、平成13年（2001）11月2日に開催された。アメリカから14人、ブラジルから7人、計21人が参加。歓迎会に先立ち、総合公園内で記念植樹が行われ、黒木2本が植えられた。歓迎会式典は、名誉村民の大城英男の音頭でスタートし、一人一人が自己紹介を行った。字渡嘉敷の赤嶺尚由による代表挨拶が行なわれ、琉舞や古武道、そして最後は参加者全員でのカチャーシー。54年ぶりにハワイから帰って来た當銘ヤスモリ（字保栄茂）は「すっかり沖縄は変わっていますね。まるで自分は浦島太郎みたいです。自分が沖縄から旅立った時、沖縄は焼け野原でした。」と語った。



第4回

第4回は平成18年（2006）10月13日に開催された。ブラジル8人、ボリビア1人、アメリカ本土8人、ハワイ5人、計22人が参加。お茶でのおもてなしから歓迎会がスタートし、各国から帰って来たトミグスクンチュ一人一人が自己紹介を行った。記念品を受け取った字渡嘉敷の赤嶺尚由は「オブリガード、サンキュー、グラシアス、そしてイッペーニフェデービル」とお礼の言葉を述べ、5年後の再会を誓い古酒づくりが行なわれた。

第4回目は、『移民編』の編集が開始して初めて迎えたトミグスクンチュ歓迎会である。この時期は情報量が非常に少なかったため、県の担当者にも協力をいただき、沖縄へ帰ってくるトミグスクンチュを早い段階からチェックし、各人へ事前に事業の趣旨を記載したメールを送った。また、沖縄滞在中に取材への協力や写真提供を依頼した。ボリビアから来た比嘉次雄（字嘉敷）は、ボリビア沖縄県人会会長として参加し、滞在中には恩納村の小学校でボリビアについて授業を行った。

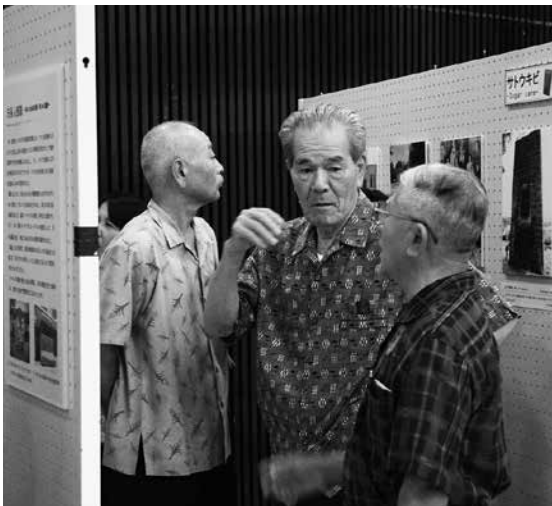
歓迎会の会場内では、初めて展示ブースを設け豊見城村からの移民について日本語と英語の二カ国語で紹介した。その際、字保栄茂自治会の協力を得て、戦後、ハワイから送られてきた布で仕立てられた祭り衣装を展示した。また、ボランティア通訳を募集し、歓迎会参加者へアンケートを行った。そのアンケートをもとに、後日インタビューを行っている。また、歓迎会に参加できなかったハワイからのグループには、ホテルに赴き挨拶を行った。歓迎会后日、文化課で撮影した写真に手紙を添えて個々人へ送付し、これがきっかけで海外在住者と連絡がとりやすくなった。ブラジル在の赤嶺尚由、ボリビア在の比嘉次雄両氏は、この時から発刊まで長きにわたり協力をいただいた。



第5回

第5回は平成23年(2011)10月14日に開催された。ブラジル、ボリビア、アメリカ、ニューカレドニアから39人が参加。1階のエントランスホールでは、宇保栄茂自治会による棒術が披露された。参加者には「ぶくぶく茶」が振る舞われ、前大会で作られた古酒(コース)で宴がスタート。代表者挨拶として宇嘉敷の比嘉次雄(ボリビア在)は、「ボリビアにもオキナワという地名があります。2つの沖縄からウチナーの魂を広げていくことができるよう頑張っていきたい」と挨拶を行った。歓迎会では古酒作りが行なわれ、琉舞や古武術、豊見城団地青年会によるエイサーが行なわれ、最後は参加者全員によるカチャーシーで締めくくられた。

市史では、第5回目の会場内で前回と同様の展示会を行った。平成20年(2008)に行った南米調査と、平成22年(2010)に行ったハワイ調査のデータをもとに、前回の大会よりもボリュームのある大きな展示会を行い、参加者に大変好評であった。この時にも会場内でアンケートをとり、後日インタビューを行った。また、現地調査を行ったことにより『移民編』を編集していることを知ったハワイ在住のアール・実雄・ザーン(宇饒波)からは、マウイ島沖縄県人会のピクニック写真の寄贈があった。



第6回

第6回は平成28年(2016)10月28日に開催された。歓迎会への参加はアメリカ本土・ハワイ72人、ブラジル23人、カナダ7人、ニューカレドニア5人の計107人と過去最多。歓迎会に先立ち、希望者54人の参加者が市内視察・観光として瀬長島、美らSUNビーチ、ウージ染め見学、忠孝酒造見学などを行った。最年少は5世の0歳児スカイ上原(字伊良波)で、この他にも10代～20代の若い世代も多く参加していた。ポリビアからの研修生、比嘉さゆり(字嘉敷)もスペイン語の通訳として参加した。代表挨拶はハワイ沖縄連合会会長の山本・トム・健(字高安)が行った。

市史では、歓迎会会場1階ロビーにおいて展示を行った。この年、『移民編』を発刊したこともあり、移民編に収録されている「移民地図」を23ヵ字分展示した。文化課からは、赤嶺みゆきが市内視察から参加者と同行、参加者へのお土産の1つとして『移民編』を手渡した。ハワイから参加したパトリック・赤嶺(字長堂)より、ルーツ探しの依頼があり、後日初めて親類と面会を果たしたパトリックは「これが最後のチャンスだと思っていた。親類と会えてとても嬉しい」と話し、お墓の場所を細かくメモしていた。



最後に・・・

現地では、すでに6世も誕生している国もある。豊見城市出身の中には、サンパウロ州連邦警察の本部長を務めた大城幸夫(2世/字平良)や、ハワイ沖縄連合会長を務めた山本・トム・健(3世/字高安)、ブラジル連邦政府の弁護士ワシントン・日郷・赤嶺(戦後移民2世/字渡嘉敷)など、若い世代がそれぞれの国で活躍している。豊見城をルーツに持つ彼らは、祖父母から聞かされてきた「豊見城」を一目見るために沖縄を訪れる。その際には、家族関係を系図として作成し親族と面談を希望する者もいる。また、祖父母が渡航する前に住んでいた場所への訪問や墓参りなどを希望し、文化課へ問い合わせる人も多い。実際に祖先への墓参りを行った2～3世の中には、墓前に両足をつき涙を流して手を合わせる人もいた。彼らにとっての豊見城は、心の拠り所でもあり「世界のトミグスクンチュ歓迎会」は自身のルーツに触れる良い機会となっている。

ブラジルの3世であるパウロ・金城（字真玉橋）は「1世の中には、沖縄の親族に借金をして渡航した人がいることも知っている。それにより沖縄の家族との縁が切れた人もいる。でも私たち3～4世の世代はルーツである豊見城と繋がりたいと思っている人が多い。いつか、豊見城の人達がブラジルに行きたいと思った時に、私たちは力を貸すことができる。戦争により途切れてしまった沖縄との繋がりを、自分たちの世代で作り直していきたい」と話す。その言葉を証明するかのように、「世界のトミグスクンチュ歓迎会」への参加者は、回を増すごとに増えており、ルーツに関する海外からの問い合わせも増えている。

戦後、豊見城村は海外に在住しているトミグスクンチュからたくさんの物資を提供されてきた。ハワイからはヤギを2匹贈られ、戦争未亡人らにより飼育された。長嶺小学校はハワイ在住者からの寄付で飲料水用のタンクを竣工し¹、上田小学校ではハワイやブラジル在住者からの寄付で校舎建築²、理科備品購入を行っている³。海外からの支援は目に見えにくいだが、戦後の私たちの生活を支えたのはこうした海外在住者からの寄付や贈物であった。

日系人を親族に持つ人の中には、「彼らは日本語ができないから・・・」と交流をこばむ人も見受けられるが、3世までは少しは日本語を聞くことができる。若い世代が方言を話せないのと同じで、ただ日本語で返すことが難しいのである。「祖父母が日本語を話していたので聞くことは出来る」という人は多く、現地で日本語学校に通った人や、テレビ、アニメを通して日本語を学んでいる日系人もいる。今後の課題として、こうした海外子弟たちに豊見城の文化・歴史を提供し、市民と交流できる場を設けるなど、本当の意味での国際交流が必要になってくるだろう。

『移民編』では移民者のその後を追ったが、現地で行方不明になった者も多く、その後彼らがどのような人生を歩んだのかは、より細かな研究が必要である。文化課では、引き続き豊見城出身移民の情報を収集し「市史だより」や「広報とみぐすく」を通して、広く紹介していく予定である。

¹ 昭和27年（1952）3月

² 昭和27年10月

³ 昭和29年（1954）6月

はじめに

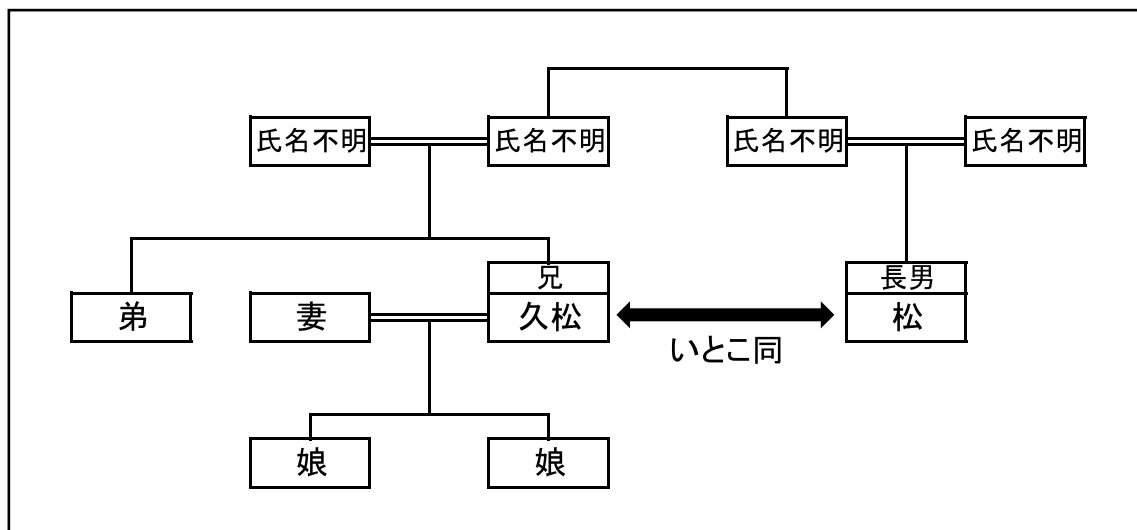
平成 28 年 (2016) に発刊した『豊見城市史 第4巻 移民編』では、豊見城村 (当時) から世界各国へ渡って行った移民・移住者の歴史を、現地調査・聞き取り調査から明らかにしてきた。今回、「市史だより」に掲載するのは、追調査によって新たに分かったカナダ移民、座安久松と座安松の事件に関するその後の動きである。この事件は、初期移民のリアルな状況を把握できるものとして『移民編』へ掲載した。その後、カナダで発行された邦字新聞『大陸日報』や新たに発刊された資料を確認すると、この事件はカナダでも大きく報道された事件であり、カナダにいた豊見城村人、沖縄県人らが協力し合い座安久松の行方を捜索していたことが分かった。併せてカナダでの久松の動きを知ることができ、豊見城村出身者の動きも確認することができた。これら資料をもとに、座安久松と座安松の事件を追記する。

座安久松、座安松について

座安久松と座安松は志茂^{しもた}田村 (現在の田頭^{たがみ}) の出身で、2人は従兄弟同士であった。明治 40 年(1907)年6月 24 日、沖縄県から 31 人がカナダのバンクーバー島ビクトリア港に向けて出発、座安久松、座安松の他にも豊見城村から瀬長加那 (字豊見城)、大嶺快亀 (字渡嘉敷)、大嶺快知 (字渡嘉敷)、金城保武 (字渡嘉敷) らがいた。

- 座安久^{ひさまつ}松 (志茂田 113 (14) 番地) 明治 6 年 9 月 5 日生まれ
- 座安^{まつ}松 (志茂田 109 番地) 明治 21 年 9 月 27 日生まれ

※『大陸日報』には、松の本当の生年は明治 15 年とある



注) 座安松の母はウシという名前だが、久松と松が父方、母方どちら側でのいとこであったかは不明。

『大陸日報』（昭和3年12月14日）の久松の弟の証言を参考にすると、久松には娘2人と孫5人がおり、当初はハワイへ渡航していたとある。本市が収集した『海外旅券下付表』⁴を確認したところ、久松がハワイへ渡航した形跡が見当たらない。実弟の証言では、「35歳の時ハワイに移民として渡航し更にカナダに渡ったもので・・・」とあるが、その歳にはカナダ行きの旅券を受取っている。同紙に掲載されているカナダ沖縄県人会長であった親泊康善の証言にも「久松君は私がカナダにいた当時太平洋汽船会社のクリメック号でハワイから転航したもので・・・」とあることから、ハワイからカナダへ転住したのはほぼ間違いないと思われる。

満期解約者名簿（沖縄県分）

(資料) 外務省資料「東京移民合資会社扱加奈陀契約移民移動表送付/件一(明治43年9月)より沖縄県出身者のみ抜粋し作成。 備考欄は『沖縄県史料 自明治四十年至明治四十四年 移民名簿Ⅱ』より出身字を追加した。	八五七七六	八五七七三	八五七六九	八五七六八	八五七八三	八五七八二	八五七七〇	八五七六一	旅券番号
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	渡航許可官庁 及年月日
	大嶺快知	大嶺快亀	新門度太	大城牛太郎	宗良宗元	島袋林藪	座安松	安里昌政	族籍・氏名
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	明治四十年七月九日	雇主と契約 年月日
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	七月八日	満期 四十三年
	豊見城間切喜久嶺村	豊見城間切喜久嶺村	具志頭間切安里村	大宜味間切根路銘村	北谷間切屋良村	越来間切大工廻村字	豊見城間切志茂田村	西原間切末吉村	(豊見城市史追加項目) 備考

座安松のカナダ到着後の動き

座安松は明治40年(1907)6月、東京移民合資会社を通じた契約移民としてカナダへ渡航。契約内容は「鉄道工夫」で、契約期間は3年であった。この年に沖縄県から渡航したカナダ移民150人中、契約満期で終了したのは8人のみである(満期解約者名簿を参照)。松はこの8人の中の1人であった。その後は、アルバータ州ハーディービルの「ガルト炭鉱」の第6番坑で働いていたが、気を病み自殺、その後はレスブリッジ市のマウンテンビュー墓地に埋葬された。松の遺骨は久松が帰国する際、沖縄へ持って帰る予定であった。

座安久松のカナダ到着後の動き

座安久松は明治40年6月、カナダへ渡航。契約内容は「鉄道工夫」で、契約期間は3年であった。前述したが、実弟が「ハワイからカナダへ渡った」と証言していることから、先にハワイへ行ってそこから転住したものと思われる。

ハワイからカナダ移動後は、松と同じ「ガルト炭鉱」第6番坑で働いていた。『海外旅券下付表』には、大正10年(1921)にカナダへ再渡航するため久松が旅券を下付された記録が残っている。このことから、大正10年以前に日本へ帰国し、再びカナダへ渡航していることが分かった。カナダへ再渡航してからの4年間も炭坑で働き、久松は故郷沖縄へ引揚げる準備を始める。その際、亡くなった松の遺骸を沖縄へ持って行くため諸所の手続を

⁴ 外務省が発行した旅券の記録

行っていた。そして大正 15 年（1926）11 月～12 月頃、友人らとともにハーディービルからレスブリッジまで向かい、そこから汽車に乗った。

それから 2 年後の昭和 3 年（1928）11 月、駅に残された受取人不明の荷物が競売にかけられた。トランク購入者が中を開けると、そこから松の遺骸が出てきたのである。これにより、荷物受取人であった久松は汽車に乗った後から行方不明となっていたことが発覚し、カナダ在の豊見城村人および沖縄県人らが久松の行方を探し始めたのであった。

その中心となったのが宇平良出身の大城榮仁である。榮仁はレイモンドに在住していたが、久松行方不明の報を知り、搜索の全費用を負担し久松の搜索を行った。『大陸日報』でも、榮仁の名で数回【搜索広告】が掲載されている。しかしその甲斐無く久松は見つからず死亡と断定され、昭和 18 年（1943）11 月 29 日に追悼法要が行われた。

座安久松の行方不明を取り扱った新聞および資料 (豊見城市史で確認できた資料)

座安久松の行方不明について、現地の邦字新聞などで数日に渡って扱われた。以下の新聞・資料で、座安久松に関する記事が確認された。現地で発行された新聞については一部しか収集しておらず、下記以外の新聞でも取り扱われた可能性が高い。

- ① 大陸日報（1928 年 11 月 24 日～12 月にかけて）※ 11 月 25 日付は資料自体未確認
当地で一番大きく取り上げている。（大陸日報の記事は後に掲載）
- ② ザ バンクーバー サン The Vancouver Sun
カナダの日刊紙。1928 年 11 月 26 日付けの新聞には「日本トランクミステリー」として報道している。
- ③ 新世界
サンフランシスコで発刊されていた邦字紙。1928 年 11 月 28 日、11 月 30 日に報道されている。
- ④ 『カナダ・アルバータ州に於ける沖縄県人会の歩み』（比嘉秀長／平成 29 年 3 月発行）
「蛮勇時代の恐怖、座安久松事件」として掲載されている。

『大陸日報』の記事について

『大陸日報』は、明治40年(1907)にカナダで創刊された邦字新聞で、昭和16年(1941)まで発行が確認されている新聞である。日本に関する記事や、同地での日本人の事件・事故、仕事の募集記事なども掲載されており、移民地での日本人移民の動きを見ることが出来る貴重な資料である。

今回使用した『大陸日報』は、ブリティッシュコロンビア大学(The University of British Columbia)のオープンコレクションより原紙を確認し、文字に起こしたものである。できるだけ原紙に近い形で掲載したが、旧漢字は新漢字へ、漢数字は算用数字へと改めている。

注意点として、昭和3年12月14日の記事の中で出てくる「伊之松」という人物だが、これは座安松のことである。

現時点では、座安松の家(屋号不明)は松の代で途絶えたと推測している。その根拠として、松の住所「大字志茂田109番地」は、大字から小字へ変更された昭和26年(1951)時点で、記録がない。松の旅券の「身分」という欄には「戸主ウシ長男」とある。松に兄弟がいたかは調査中だが、この地番に関する記録が残っていないことから松の代で途絶えたと推測している。

松の遺骸がトランクから発見され、久松が行方不明となった事件は、当時カナダの日系社会で大きな話題となり、連日『大陸日報』で掲載された。今回、事件発覚当時の記事を紹介する。

『大陸日報』昭和3年11月24日(5面)

トランク詰の

邦人の怪死体

行方不明中であつた

沖縄県人座安久松の旅券発見

当地シー・ピー・アールの倉庫に1年以上も積み重ねられていた1個の怪しげなトランクの中から見るも痛ましい一日本人の干からびた死体が昨夕発見され大騒ぎとなった。同時にトランクからは原籍^{ざ あひさまつ}沖縄県島尻郡豊見城村志茂田、座安久松(55)の旅券が出た。謀殺の犠牲か、病死の果てか兎も角も当地で解剖に附せられるであろう。又、旅券と死体との関係^{そのすじ}も其筋で調査中。

昨日午前^に当地シー・ピー停車場で例により1年以上経過して持主の判明せぬ荷物の競売があつた。バーナビーのキーファー街3734番^{ドル セン}チェー・イー・ベッツ氏は1個のトランクを14弗50仙で買い求め同日午後4時自宅に運び込んで蓋を開けると中から品物の外に長さ2呎10吋、幅^{インチ}15吋、深さ^{インチ}14吋のワニシ塗りの◇板の箱が現れた。猶^{なお}其の箱を開けてみると内側はブリッキの缶になって居り中からシャツ1枚だけを着了前記日本人の怪死体が現れたのでベッツ氏は腰を抜かさん許りに驚き直に其旨バーナビー署に報告し同署から^{ぼんし}晩市警察署に^{いちよう}移牒して来た。死骸は薬漬にしてある為めか何等の臭気もなくスッカリ干からびて人相も何も解らなくなっているが上顎の一部が欠けているらしいとのことであり歯は大部分金の入歯である。箱の上部には「人骨」と日本字で書いてあるが白人のことだから^そ夫れも知らなかつたものである。

◇発送人は今のところ判明して居らぬが探知する所旅券の主は明治40年加^{カナ}奈^ナ陀^ダへ初めて渡航した形跡があり同人の旅券には大正7年となっているがそれは再渡航の年であるらしく思われる。彼は以来ずっとアルバータ州レスブリッジのコール・マインに就^{すく}働^なし少くとも一千弗以上の貯蓄があったとも噂されて居り今朝某氏は「彼の実弟座安某が矢張り奥地で病死し其遺骨を携えて郷里に帰るべく昨年11月レスブリッジを出て以来途中で行方不明となり今日に及んだもので兄は昨年12月のエンプレス船⁵に乗船の筈になっていた。所がレスブリッジ在の同郷人は同人に依頼した物品や伝言が届かぬとの郷里からの音信によって初めて座安の行方不明となれる事実が判ったのであったと云うことだ」と語っている。

座安の

人となり

久松は身長^{フィート インチ}5尺3寸、横に張った体格で酒好きな為め多少体も弱くなっていたらしい。郷里には妻と子があったが死に絶えたと云われている — 噂として伝えられているのに久松はレスブリッジを出る前後^{たいら}平^た某^たの為め某農園に連れて行かれたとも云うが何等此の方は確証がない模様である。当地警察署の推察では兎も角も人体を日本に送る筈であったが税関の点で断念し停車場に荷物を届かせた儘放棄したものではないかと観ている。

死体は手足切断

旅券とは別人か

久松の弟は数年前切腹

沖縄県人座安久松の旅券と共にトランクから出た怪死体は或いは数年前アルバータ州レスブリッジで精神に異状を呈した

結果ナイフで割腹自殺を遂げた久松の弟座安松の遺骸ではないかとの

◇疑問が茲^{ここ}に起って来た。自殺した弟の葬式はレスブリッジで同県人や知人^{たちあい}立会の上執行埋葬されたが久松が昨年千弗位の金を持って帰国せんとする際、彼は弟の遺骨を持参することになっていたことから察し其後弟の遺骸を発掘して薬づけにし缶詰にして晩香坡^{バンクーバー}へ向かったのではないかと思われる点があり自分の旅券や荷物と一緒にトランクに詰め出晩の途中久松だけが突然判らなくなりトランクだけ昨年11月の当地に着いたのではなからうか。久松はキャルガリーまでは汽車に乗っていたと云われているが、手足を切断されている肉つきの死骸が3、4年前死んだ弟のものかそれとも途中で何者かの犠牲になった久松のものか何れにしても疑問の怪死体である。

旅券の内容

旅券の本人は

原籍 沖縄県島尻郡志茂田^{しもた}14番地

氏名 座安久松^{ざあひさまつ} (移民)

年齢 48 (大正10年)

家族関係 戸主

身長 5尺3寸

特長 面長浅黒、眉濃

旅券^{かふ}下付日付 (再渡航)

大正10年8月25日

美府上陸^{びふ} 1921年9月13日

⁵ 客船のこと

謎の怪死体は

殺された形跡なし

土曜日新西院で解剖さる

久松の従弟のらしい

沖縄県人座安久松氏の旅券其他の品物と共に去る金曜日競売のトランクの中から出た缶詰の日本人の怪死体は他殺と想われると領事館員は英字紙記者に語ったりしているが一昨土曜日バーナビー警察署から新西院ボウエル父子葬儀社に移され其処でドクター・ジー・エス・バーヴィスの執刀で解剖された結果

「死骸は明かに適当な葬儀社の手に依り薬漬けにされた証拠が充分あり普通何処の葬儀社でも行うような風に左腕の一部を切開して防腐液を注射し再び縫った形跡があるがこれは決して素人の出来る業ではない」

と立会いの専門家達は語っている。そして又死体は相応長い間埋められたと信ぜらるべき明白な証拠があるので

◇警察では「常識から考えても他殺体を完全に埋葬して再び発掘し何の道税関吏に発見されるような所へワザワザ荷造りにして送ってくる如きことは信ぜられぬ」と漏らしている。解剖は3時間以上も要したが一切の結果は今週中新西院で検死官イー・エチ・マクイウエン氏の下に開廷さるべき検死裁判で発表する事になった。

死体と

久松の関係

同県人の推察

前記の如く死骸は幾年かを経過した形跡が明白に存している点から昨年頃まではアルバータ州レスブリッジに住居してい

た旅券の主座安久松氏ではないらしいと当地の同県人間では思惟するもの多く探偵サーチエント、エリス氏等も死体が旅券の人と同一だと云うことは甚だ疑問だと漏らしている。然らば其の怪死体は何人のものであるか。座安久松氏とは何んな関係があるか。同県人や知人の間では土曜日の本紙報道の通り座安久松氏の従弟同姓松（36歳で自殺）のものだとすれば昨年久松が従弟の遺骨を持参して帰国すると云ってレスブリッジを出発した事実や素人の手で出来そうもない嚴重な方法で遺骸を缶詰にし其上「人骨」と書いた札まで貼ってあったなど合点の行く点が多いと語り合っている。只疑問なのは久松自身の行方であるが

- 1、出晩の途中乃至出晩中バクチにでも手を出して金を使い込み隠れているか
- 2、それとも途中何者かに謀殺されたかの2説がないでもない。

遺骸の

埋葬費は

誰が出すか

トランクを14弗50仙で買ったベッツ氏は法律上右トランクの所有者となり中の在品に対する責任も負わねばならぬのであるが抑々誰人が在中の遺骸埋葬費を出すかという問題が起ってバツタリ困った。バーナビー側では遺骸は晩香側から来たことを証明出来るし、晩市でもトランクを買って持ち去られた地はバーナビーであることを証明できるしベッツ氏は青くなってこの点も心配している。

金歯が何より証拠

従弟には旅券なし

同県人當山氏の漏した話

座安久松氏の従弟で同じく長い間レスブリッジの炭坑に就働していた座安松が今から数年前^{かのち}彼地で発狂した挙句自殺して土葬に附せられたことは既報したが同人は旅券を持っていなかった^{よし}由昨日同県人の當山氏は次の様な感想を語った。

「死骸には前歯に金の入歯を入れていますが私が記憶する限り座安久松の従弟が沖縄に居る時分から前歯がなくレスブリッジに行ってから金を入れていた。久松氏は確前歯は揃い奥の方がなく^{それ}夫はその儘となって居たように思います。で死体はどう考えても松のものではないかと察せられます。松は確^{たしか}大正10年頃何かに失敗して発狂し其筋へ収容されたが一時柔順になったのでレスブリッジのハードヴィルの自宅に連れて来られたときナイフで切腹し、それも僅3、4^{インチ}吋でしたが本人が暴れ廻り中のものを引きずり出して死んでしまった。同地葬儀屋に依頼して土葬に附したのですが、丁度日本から再渡航したばかりの久松氏が遺骸^{ひきとり}を引取たいと申出た際はまだ期限が来ぬとかで許可にならなかったものでした。其後は知りませんが期限が来ると共に発掘したのではないかと考えられる。松は何^どつちであったか記憶しませんがレスブリッジで相撲を取り片腕を折ったこともありました。彼はまだ徴兵猶予をしていたから死んだ時は37歳頃でしたろう。従兄の久松氏は真面目なときは人に害を加えるとか人の恨を買うと

か云う性質の人間でなく人に殺されるような原因がない。但し酒は好きで飲むとグデングデンになったものです」

久松が昨年レスブリッジを立つ時は多くの知人の贈り物や土産物金銭等を預かったもので従弟の遺骨や自分の所持品を同じトランク2個に詰めてシー・ピーの汽車に乗ったらしく去る金曜日に全然同じもののトランク2個が競売され其1つはバーナビーの白人ベッツ氏が買って事件の発端をみたが

他の1個は

何人が持ち

帰ったか

そして中にはどんな品物が入っていたか今朝までのところ判明して居らぬ。警察は若(も)しや何等かの手掛りにもと探している。シー・ピー・アールでは右トランクが何処のステーションからいつ到着したかも本日までには知るに確証がない模様である。

『大陸日報』昭和3年11月27日(5面)

松の自殺は

郷里で失恋の結果?

明かになった実際の年齢

トランク死体事件

本紙既報の通り近来の怪事件たるトランク^{つめ}詰の死体は旅券の主座安久松氏に^{あら}非ずして彼の従弟に当る同姓松のものであることを漸く^{ようや}其筋でも信ずるようになって来た。松がレスブリッジ附近のシー・ピー・アール所有第6号炭坑に就働中大正9年発狂して同地精神病院に収容され同10年1月7日割腹自殺を遂げているのは、其筋の手に入った。

医師の診断書

で益々明白となって来た。松の自殺原因に就ては、彼が郷里豊見城村で或女を慕い何かの事情で結婚出来なかったのを苦しめた結果らしいと漏らす者がある。兎も角彼が従兄久松氏と同伴日加用達⁶の手を経て渡加したのは明治40年、彼が25歳のときであった。戸籍上松の出生は明治20年となっているが実際は

明治15年生まれ

で其間届けを怠っていたのであった由。猶も昨日新たに齎された同県人の話は左の如くであった。

「ガルト・ホスピタルに収容されている間松は非常に金物類を集める奇習があったがそれが何の為であったかは判らぬ。彼れは大正10年正月7日割腹して同日死んだが場所は同病院の一室だったと思われます。久松氏は医師の証明と共に死骸を引取り自分で死体の保存法を行い数年の間ハーデイヴイルの自宅に置いてあったものらしい。彼等従兄弟が第6号炭坑に共に就働していたのは相当久しい間であったろう」

当市英字紙には日本人の語った話として沖縄県島尻郡地方は昔から死後或期間を死骸保存の風習があり日本政府で右は禁じているが今以て行われていると云う風に記載されている。

他のトランク

若い女が

買ったらしい

死体詰のトランクと同型のも1つのトランクの買手をシー・ピー警察で捜索の結果1人の若い女の手で落札したことが昨日判明。住所姓名等は引続き取調中

であるが今日まで申出のないのを見るところには何等怪しむべき品もなかったと見られている。猶死体と共に出た何等かの証拠となるべき品々は久松の旅券の外に

- 1、座安久松及一家族の写真1葉、外に受取の手紙や葉書
- 2、レスブリッジ署長ハーデイ氏からの人頭税納付の注意書
- 3、ハーデイヴイル郵便局からヂー座安発給の日本沖縄県島尻郡ケー座安支払マネー・オーダー
- 4、座安久松の渡加以来1922年（大正11年）迄の住居記録。之に依ると久松は1919年から22年までレスブリッジに居りそれからハーデイヴイルに移動して居る。

この方こそ他殺か

従兄久松氏の運命

所有の金は案外少かった

怪死体の主が判ってみれば疑問の中心は久松氏の運命に移って来たが彼が昨年帰国のためレスブリッジの停車場からシー・ピー線列車に乗ったのは事実であり、若し彼が一直線に日本へ行つたとすれば其処に非常な

◇無理が生じて来る。第1に何故同県人の幾多の依頼物を同郷に届けぬかの点、1年以上も経過した今日何故郷里乃至はレスブリッジの知人へ手紙1本寄越さぬかの点、而して晩市を通過したとすればせめて遺骸の入れてないトランクだけでも何故受取って行かなかつたか等々。一方レスブリッジ発の列車はキャルガリーで乗替えるが

其際久松氏は

金銭上の用で

同市に降車したとは最初彼の行方不明を同県人間で騒がれた時分から専ら噂され

⁶ 日加用達会社は東京移民合資会社を通して、CPR（カナダ太平洋鉄道）への日本人移民の募集を行った。同社は明治39年12月設立。

たもので若しそれが事実だとすれば彼が再びキャルガリーから乗車したや否や、荷物だけは晩香坡に

◇安着しているのだから彼地と晩市との間に判らなくなったものとは穏当な推察だとされている。殺害の犠牲？推量は自由であるが彼は英語を全然知らず所有の金も世間で思われたほどではないと彼を知る人たちは一斉に語っている。

同県人の希望

松の遺骸について晩市在住の県人間では裁判後是非引取って埋葬したいと漏らしている。

『大陸日報』昭和3年11月28日（5面）

疑問の中心は

も1つのトランク

果して其れが久松のか

シーピー警察の見解

座安松の死体発見に関し奇怪視せられている第2の同型トランクの買主は若い女とばかりで今なお判明せぬがシー・ピー・アールが関する限りの調査を同会社警察が進めた結果左の事実が告げられた。

「3日間に亘る詳細なる調べの結果第2のトランクは外觀殆んど死体在中のトランクと同一物の如くであったが積出した場所はアルバータ州レスブリッジではなくて当州の奥地某所から来ている。猶また死体在中のトランクは1926年12月19日晩香坡の停車場に到着しているが第2の分はそれより数週間遅れて着き、両トランクとも先週金曜日午前各同じ値段の14弗50仙で売却されたもの」とて期日と発送地の相違からシーピー警察では第2のトランクにも座安松の死に絡まる別の死体在中云々の説等を否定

し、しかも第2の分は座安久松の所有物云々の説さえ無くなるわけである。ところが実際は第2のトランクが座安久松の所有物でないと云うことは何等確証のないことで若しも氣遣われた通り第2も久松の物であったとすれば、其処に驚くべき何物かが潜んでいようとは関係者が最も恐れる点だ。久松はレスブリッジから晩香坡までの間に確に

下車した形跡

があると県人間で其の当時から噂されていたからである。然し之れとても今日迄第2のトランクの買主から何等の異変も報ぜられて居らぬのを見ると別物かも知れず、さりとして第1のトランク事件でスッカリ怖気づき蓋を明けもせず今日まで何処かに隠し、うるさいから暫時沈黙を守っているのかも知れないと思惟されることもないと見られている。

『大陸日報』昭和3年11月29日（5面）

死体の発掘には

正当の手續をした

出晩した金城陸行氏の談

トランクは1個だけ

座安松の死体発掘は正当の手續を経たものであり死骸の容れてある箱にはアルバータ州当局の許可証が貼ってある筈だと云うことが来る土曜日のエシヤ号で帰国の為めレスブリッジから昨日出晩したハーデイヴイル同志会の会長金城陸行氏により判明した。氏は語る

「私は出て来るときレスブリッジの停車場で初めて事件を知って驚いたが座安松氏が埋葬されたのは大正10年1月、従兄久松氏が帰国の為め◇出晩する一昨年おくたけちようじつの11月奥武朝実おくたけちようじつ氏の世話で死体発掘の正当な手續を

エドモントン市のアルバータ州庁へ為し其の許可を得て2人の白人人夫を雇い発掘しアンダーテーカーの手で立派に防腐装置がされたのであった。よく調べたら判るでしょうが確かに州庁からのインスペクトしたペーパーを箱の何処かに貼ってある筈です。私たち20人位が久松氏の^{しゅつたつ}出立の日はハーデイヴイルからレスブリッジの停車場まで約3^{マイル}哩を見送り同所から彼は汽車に乗った。トランクは

◇人骨と書いた箱を入れたのが1つだけでした。彼地に火葬場がないので久松氏は出晩の上火葬に附し骨だけ持って帰る筈でした」

松氏の遺骸は約6年間地下にあったわけだが気候其他の関係で遺骸は白骨になり切らずに残っていたものである由。なお

松の自殺原因

は失恋云々よりも彼が当国に来て或農園に就働中^{きゅうきん}給金が貰えなかったり其他失敗が続いた為めからだと言われている。

『大陸日報』昭和3年12月6日(5面)

久松の行方不明と

奥地在留者の見解

矢張り日本には行かぬ

トランク死体事件に関しては既に本紙が詳細に報道したところであり出晩した金城睦行氏の証言により其筋も一切の疑問を解いたが本日ハーデビルの奥武朝実氏から左の通信があった。

「…座安松の遺骨は郷里の遺族の希望により郷里の墓地に移葬の目的にて座安久松氏再渡航し5ヶ年を経過したる後再びマケー氏(葬儀屋)の手を経て州政府の許可を受け納棺の

一切の手続を整えて大正15年12月17日レスブリッジを出発したのです。爾来^{じらい}満2ヶ年、久松氏よりは何の音信もなく友人等は心配して諸所を尋ねたが無駄でした。唯吾々が1つの望みを持って今日まで

◇世間に発表しなかったのは久松氏が誰れでも^{かい}解し得るような手紙は書けなかったし猶それに彼の出發前に語った事に彼の末娘が結婚して大阪に居住しているから1、2ヶ月或は5、6ヶ月程も同所に滞在するかも知れぬ故コトヅケ物が^{おく}後れる場合は然るべく

◇了解を求めていた。

左様な訳で吾々は1月2月と懸念し^{ながら}乍ら時日を過ごしているうち今回のトランク事件として報道されたので一同驚愕しました。是れによりレスブリッジと晩市との間で行方不明となったことが確証されたと吾々は信ずるものです。当方では全力を挙げて今度は久松氏の行方を捜索するに決しましたから遠からず生死が判明するでしょう」(後略)

座安松の

遺骸を火葬

骨は郷里へ送る

故座安松の遺骸受取りに対しシテーからも許可されたので本日午前11時県人側はバーナビーへ受取りの為め赴いた。本日中当地で骨にし同県人の帰国者を待つて遺族の許へ送る筈。今朝ハーデビルの大城氏からも其旨依頼の電報が来た。

『大陸日報』 昭和 3 年 12 月 7 日 (5 面)

搜索広告

原籍 沖縄県島尻郡豊見城村字志茂田 14
番地

座安久松

年齢 55 歳

身長 5 尺 1 寸

特長面長浅黒上顎は全部入歯下顎の前歯
に金の入歯あり

右は大正 15 年 12 月 17 日帰国の為め
レスブリッジ市出発以来行方不明と
相成候あいなりせうろうに付き彼れの住所御承知の方は
左記何れなりとも御一報被下度相当の御
礼可致候くだされたく

昭和 3 年 12 月 2 日 大城榮仁

P. O. Box. K Raymond. Alta.

ハーデビル同志会

P. O. Box. 350 Hardieville, Alta.

『大陸日報』 昭和 3 年 12 月 8 日 (5 面)

●壺に収まった

座安の遺骨

帰国者を待つ

本紙既報の如く故座安松の遺骸は一昨日
友愛会の津賀山、高峯、同村人の瀬長諸
氏バーナビーに出張の上引取り同日当地
で火葬に附したが昨日遺骨を受取って壺
に収め昨夕は 6 時から本派佛教会で立派
な追悼会が催された。今度の事件ではダ
ンレビー街の當山氏や津賀山氏等が非常
に骨を折っていた。遺骨は 15 日頃横浜
丸で郷里へ送られるであろう。

【搜索広告】あり

『大陸日報』 昭和 3 年 12 月 10 日 (5 面)

御礼広告

沖縄県人故座安松氏の件に関し皆様の御
同情を蒙り深く御礼申上候 御陰で支障
なく遺骸を受取り火葬に附し昨夜同郷人
相揃い追悼会を営み申候條右紙上を以て
生前辱知諸彦じょくちしよげんに謹告申候

友人 大城榮仁

12 月 8 日

瀬長加那

沖縄県人友愛会

【搜索広告】あり

『大陸日報』 昭和 3 年 12 月 11 日 (5 面)

【御礼広告】【搜索広告】あり

『大陸日報』 昭和 3 年 12 月 12 日、13 日
(各 5 面)

【搜索広告】あり

『大陸日報』 昭和 3 年 12 月 14 日 (5 面)

悲報を聞き

座安の郷里で驚く

『酒親爺』で通った久松

実弟や知人が交々語る

一時当地で騒がれた沖縄県人座安松のト
ランク詰死体事件は直に日本へも大きく
報道され殊ことにこの悲報に接した座安の郷
里では一方ならず驚いているが本日着の
那覇来報は左の如く伝えて来た。

(那覇発) 沖縄県島尻郡豊見城村字志茂
田 113 座安久松 (56) の家を訪うと実弟
野郎のちよう (49) は此の悲報に驚き悲しみな
がら語る。

兄は 35 歳の時ハワイに移民として
渡航し更に加奈陀に渡ったもので、
妻は早く死に目下 2 女とほかに孫 5

名があり。一旦帰朝しその後更に大正10年再渡航したもので一昨年1月はアチラで死んだ伊之松の遺骨を持って帰ると云ってきましたが、何の音沙汰がないので一同案じていた際でした。

猶明治40年頃カナダの沖縄県人会長をしていたことがある現那覇市会議員親^{おやどまりやすよし}泊康善氏は語る

久松君は私がカナダにいた当時太平洋汽船会社のクリメック号でハワイから転航したもので、最初アルバータ州のレスブリッジ市の第6号炭坑で働いていたが小柄の男で至って酒ずきでチョイチョイ喧嘩などもやっていたが、根は正直な男であった。同炭鉱にその当時沖縄県人だけの沖縄村もあったが死体の傍にパスポートがあったのから見ると帰国する為めバンクーバーに出て来てそこでやられたのでないかと思われる。なお甥の伊之松もあちらで酒の上から殺されたものだがその当時は精神病患者として取扱われ自殺とされていたので気の毒であった。また久松君は例の酒すきから居村のものも本名を云わず、酒親^{さけおやじ}爺^{うんぬん}として通っていたほどで好人物であった云々。

座安久松と^{ハーディービル}羽出美留同志会

『カナダ・アルバータ州に於ける沖縄県人会の歩み』（比嘉秀長、2017年）では、久松のカナダでの活動を知ることができる。

大正10年(1921)3月、ハーディービルで「羽出美留同志会」が結成された。これはハーディービルのガルト炭鉱で働く沖縄県人炭鉱就労者によって組織されたもので、当時の会則概要を前掲した資料から確認することができる。会の会則概要（一部分）を以下に記すと、以下の通りである。

第1条 本会は羽出美留同志会と称し、同地及び付近在住者を持って組織する。

目 的

第2条 本会の目的を遂行する為、下記の事項を遵守する事。

第1項 会員は一致協力を以って相互の幸福利益を主とし、日加両国民の親交計る事。

第2項 会員共通の利益に背反すべき事故の防止、並びに除去に努め、業務の発展を計る事。

第3項 当地会社の仕事は一般が就労する時のほか、会社の事故の為、停日となり又は休日等に於いて監督者より所要の人員要求のある場合は順次交互に従事する事。

第4項 会員相互の危急を救い、且つ幸福増進を計る事。即ち相互扶助を目的とする。

羽出美留同志会の初会合が、金城睦太郎（読谷村字喜名出身）の自宅で行われている。この会合には23人が出席したが、その中に座安久松がいた。久松は渡加後、炭鉱で勤め続けていたと思われ、そのことから同志会結成に関わったのであろう。なお、同志会が発足する2ヵ月前に、久松の従弟の松が当地で死亡している。

賭博問題

ハーディービルで同志会が結成された後、沖縄県人間である問題がおきた。それが賭博である。6月～8月頃は午後9～10時に日が沈むため、時間を持て余していた移民たちが賭博を行うようになったのである。同志会では、このことを重く受け止め、大正14年（1925）2月に賭博問題について協議している。その時、「取締委員」の1人として任命されたのが久松であった。久松がハーディービルを経つ1年前のことである。

久松は、ハーディービルを去る直前まで当地の沖縄県人と深く関わっていた。行方不明が発覚した後、当地で多数の県人が久松の行方を探したのは、これら久松の活動があったからであろう。しかし、その後久松がどうなったかを知る者はなく、帰国するはずだった久松がカナダで行方不明となり、カナダで死亡した座安松の遺骨が沖縄に戻るといふ、カナダでも大きく報道された事件であった。

カナダ初期移民のその後

ここで、新たに分かった情報をふまえカナダへの初期移民について追記する。

	座安松 (字田頭)	座安久松 (字田頭)	金城保武 (字渡嘉敷)	瀬長加那 (字豊見城)	大嶺快亀 (字渡嘉敷)	大嶺快知 (字渡嘉敷)	
明40(1907)	契約移民として渡航	契約移民として渡航	契約移民として渡航	契約移民として渡航	契約移民として渡航	契約移民として渡航	
明41(1908)	契約満了(7月) 第6炭鉱にて就労	契約解除(逃亡?)	契約解除(逃亡?)	契約解除(逃亡?)	契約満了(7月) 帰国年不明	契約満了(7月) 帰国(10月)	
明42(1909)		レスブリッジ在住 ↑ 8月、再渡航 ↓ ハーディービル在住 ↓ 沖縄へ出発 ↓ 11月、トランク発見	第6炭鉱にて就労				
明43(1910)							
明44(1911)							
明45(1912)							
大 2(1913)							
大 3(1914)							
大 4(1915)							
大 5(1916)							
大 6(1917)							
大 7(1918)							
大 8(1919)							
大 9(1920)	↓						
大10(1921)	死亡(1月)						
大11(1922)							
大12(1923)							
大13(1924)							
大14(1925)							
大15(1926)							
昭 2(1927)							
昭 3(1928)							

大嶺快亀 (字渡嘉敷)

満期解約者名簿に快亀の氏名があることから、3年の契約を満期で終了していることが判明。その後、快亀は沖縄へ帰国し大正6年(1917)に妻を伴って北米へ渡航している。なお、快亀は昭和28年(1953)にカリフォルニア州ロスアンゼルスで死亡、その妻カナはのちに日本国籍を離脱している。

大嶺快知 (字渡嘉敷)

満期解約者名簿に快知の氏名があることから、3年の契約を満期で終了していることが判明。快知は3年の契約を終えてすぐの明治43年(1910)10月18日に旅券を返納していることから、契約後すぐに日本へ帰国している。快知に関する資料がこれまで確認されなかったのは、契約終了後すぐに帰国していたからであり、その後は豊見城村で暮らしていたと思われる。

豊見城村から最初に海外へ渡航した人たちのその後

アメリカ本土

豊見城村からアメリカ本土へ渡航した第一号は、字饒波出身の長嶺保榮という人物で、村から最初の海外移民であった。保榮は明治32年(1899)、「学術研究ノ為メ」に渡航しているが、渡航後の生活については未だに不明。市にも保榮に関する資料が残っていない。

長嶺保榮がアメリカに渡航した2年後の明治34年(1901)、字与根から安仁屋政修^{せいしゅう}、明治35年(1902)に安仁屋幸純^{こうじゅん}、明治36年(1903)に安仁屋政基が渡米している。安仁屋政修については『移民編(本編)』に詳しいが、政修は第二次世界大戦の末期、ユタ州のソルトレイクシティに住んでいた。その地で他界した政修は日本人キリスト教会によって葬儀が行われたが、詳しい死亡年月日が不明であった。しかしその後の調査で、政修は「ジョー・セイシュウ・アニヤ」という名で死亡届が出されていたことが分かり、死亡したのは昭和19年(1944)1月9日であった。

ハワイ

明治37年(1904)、字根差部出身の外間喜展という人物が豊見城村から初めてハワイへ渡るために旅券を取得した。『豊見城村史(復刻版)』では、「村よりハワイへの第一回目渡航者は嘉数の比嘉仁徳(商業学校出身)で、明治37年であった。(P816)」と記載されているが、外務省の旅券発行記録を辿ると外間喜展であった。喜展は「マンチュリア」という船でハワイへ渡ったことが記録されている。喜展のハワイでの生活は不明だが、喜展がハワイに渡った2年後に、喜展の弟の徳吉がハワイへ渡っている。喜展はのちに帰国し、大正3年(1914)に同住所の外間牛とペルーへ渡った。2人はその年の8月23日にペルーに到着し、タンボレアルという場所で働いていた。

ニューカレドニア

オーストラリアの東方にある島で、フランス領。明治38年(1905)12月に、豊見城村から19人が渡航した。全員が5年契約で渡航している。そのほとんどが帰国しているが、中には座安正春^{せいしゅん}(字金良)のように現地女性と結婚し家庭をもうけた人もいた。正春は契約終了後もニューカレドニアに残り、3人の子どもに恵まれたが戦争により「敵国人」として逮捕、収容所で死亡した。正春の孫のレンヌ・マリーは「第5回世界のトミグスクンチュ歓迎会」から家族を連れて参加している。



第5回世界のトミグスクンチュ歓迎会にニューカレドニアから初めて参加したレナ・マリー(写真左)とその親族。レナは座安正春の孫娘にあたる。(2011年撮影)

大字・小字別移民者数

大字	小字	移民者数(戦前)
豊見城	豊見城	203
	宜保	33
地覇	我那覇	170
	名嘉地	100
志茂田	田頭	25
	瀬長	48
	与根	94
座波名	伊良波	52
	座安	81
	渡橋名	23
喜久嶺	上田	106
	渡嘉敷	134
翁長	翁長	274
保栄茂	保栄茂	252
高良	平良	188
	高嶺	59
高入端	高安	138
	饒波	190
良長	金良	70
	長堂	143
真嘉部	嘉敷	121
	真玉橋	186
	根差部	118
	字不明	219
	合計	3,027

豊見城村からの移民総数(戦前)

順位	人数	地域
1	772	ハワイ
2	673	フィリピン
3	616	南洋群島
4	443	ブラジル
5	154	ペルー
6	97	八重山
7	77	ニューカレドニア
8	39	台湾
9	33	満州
10	22	東インド
11	18	ボルネオ
12	17	シンガポール
13	16	大洋島
14	13	カナダ
15	11	中国
16	8	アメリカ本土
17	7	メキシコ
18	5	アルゼンチン
19	3	セレベス
20	1	キューバ
20	1	朝鮮
20	1	ジャワ
合計	3,027	

各字内では「フランスオジー」と呼ばれていた人が数名確認されたが、それらはニューカレドニアからの引揚者であった。ニューカレドニアがフランス領であったことから、そう呼ばれていたようだ。

フィリピン

明治39年(1906)、字渡嘉敷の赤嶺亀次郎が村から初めてフィリピンへ渡った。亀次郎の渡航時期に関しては資料が乏しく、ここでは『比律賓概要と沖縄縣人』(村山明德著)を参考に明治39年としている。亀次郎は沖縄県師範学校を中途退学し、のちにフィリピンへと渡航した。大正5年(1916)には、ブナワン耕地に200町歩(約60万坪)の土地を租借し、弟の赤嶺加那、徳三、亀二と大嶺快玄(字渡嘉敷)と共に「赤嶺兄弟拓殖株式会社」を設立している。昭和6年(1931)、死亡。



赤嶺亀次郎と息子の敬夫
亀次郎が租借していたブナワン耕地で撮影されたもので、腕を組んでいるのが亀次郎である。(提供：赤嶺夫保)

メキシコ

明治39年(1906)、豊見城村から7人が渡航した。このうち、**真境名元憲**(字嘉数)のみが定住し、**比嘉徳助**(字嘉数)は帰国、**比嘉來祿**がフィリピンで戦死、その他の4人については不明である。真境名はオアハケニヤ耕地を出たあと、明治43年(1910)に裁縫店を開いた。日本人会の役員や沖縄県人会の会長を務めるなど、活躍していたようである。

カナダ



座安久松

明治40年(1907)、カナダへ6人が渡った。前述した**座安久松**、**座安松**もその一員であった。6人全員が東京移民合資会社との契約移民で、仕事内容は鉄道工夫であった。仕事内容の過酷さから多くの人が契約を終える前に逃亡、契約解除していき、契約を満期で終えた沖縄県出身者は150人中8人であった。その中の3人が豊見城村出身者で、座安松(字田頭)、大嶺快亀(字渡嘉敷)、大嶺快知(字渡嘉敷)であった。

ブラジル

明治41年(1908)、日本から第1回目のブラジル移民781人が海を渡った(「笠戸丸移民」と呼ばれることが多い)。この中に24人の豊見城出身者が含まれていた。24人の中には、カンポグランデという地域で日本語学校(ハンジャ学校)設立に尽力した**赤嶺喜左**(字嘉数)、**大城蒲戸**(字上田)がいる。赤嶺喜左は、カンポグランデで日本人初の土地所有者となっている。24人のうち、ブラジルに定住した者が15人、アルゼンチンへ転住したのが2人、沖縄へ帰国した者が5人、行方不明者が2人である。なお、笠戸丸移民の代表的な人物として字上田の**大城カメ**が有名である。(詳しくは『移民編(本編)』P183～を参照)



写真左)
豊見城村出身者が設立に携わったハンジャ学校。現在は「ビスコンデカイル学園」と改名されている。

写真右)
晩年の大城カメ
(提供：比嘉辰博)

ペルー

明治41年(1908)、豊見城村から30人がペルーへ渡航しているが、一番早い渡航者は、比嘉喜九郎(字嘉数)、長嶺加那(字長堂)、照屋亀八・カマト夫妻(字金良)である。**比嘉喜九郎**は32歳の時、単身でペルーへ渡っている。渡航後、サンタバルバラ耕地で開拓生活を営み、17年後に字嘉数に戻ってきた。しかしその後、妻が亡くなり44年間生活していた字嘉数を離れることを決心、昭和43年(1968)孫らの住むペルーへ再渡航した。92歳でペルーに渡った喜九郎は、昭和47年(1972)96歳で亡くなっている。



キューバ

キューバには、大正13年(1924)に**長嶺正義**(^{せいぎ}字饒波)のみが渡航している。『移民編』発刊後の調査で、正義に関する情報を字饒波で得ることができた。長嶺^{ゆうせい}勇征(ハワイ在)によると正義はキューバに行き、そこからブラジルに移り住んでいるという。ブラジルではサンパウロで大成功し、沖縄へ帰国。与那城村で事業を行っていたが高齢になり字饒波に戻ってきたという。

豊見城村から最初のペルー移民となった比嘉喜九郎(一段目向かって右)。17年後に帰国したが、92歳の時にペルーへ再渡航した。

写真は、昭和24年頃に字嘉数にて撮影されたもの。

(提供：比嘉邦治)

南洋群島

南洋群島は、戦前は日本の委任統治下であったことで移民たちへ旅券が発行されておらず、そのことから最初の移民を断定するのは難しい。引揚げに関する資料には渡航年不明者が多く、ここでは申請のあった者に焦点を当てる。その中で最も早かったのが大正5年(1916)に渡航した字座安の**瀬長亀吉**である。亀吉は31歳で南洋群島へ渡り、それから21年間南洋群島で生活していたが、昭和19年(1944)にマリアナ諸島で亡くなっている。

ハワイに存在している「高良同志会」の結成について

『移民編』発刊時には情報が少なかった「高良同志会」について、結成に関する資料を確認することができた。内容を、以下に記す。

高良同志会50周年祝宴

△2月・・豊見城村の字高嶺と字平良の出身者で作っている高良同志会は、1月11日午後6時からマサス・キャフテリアで恒例の新年会を開き、2年遅れの“創立50周年”を祝った。

新年会は最高齢者の大城蒲戸氏（90）や同クラブの創立者の1人である大城光助氏（80）らをはじめ会員約150人が出席。

大城光助氏によると、同高良同志会は、1933年11月に字平良出身者だけで組織、翌34年1月に「平良同志会」として発足したが、字高嶺出身者からの入会希望者が多いので同年夏に高嶺出身者の入会を認めて名称を「高良同志会」に変更、現在に至っている。

同クラブはハワイ沖縄県人連合会には加盟していないが、母村の豊見城村人会よりも早く創立されたことを誇りにしている。（HPP）

『新聞にみるハワイの沖縄人90年 戦後編』より

この記事によると、1935年（昭和10）に創立された「豊見城村人会」よりも2年早く「平良同志会」が結成されていたことがわかる。字平良は、豊見城村内でもハワイ移民を一番多く出した地域であり、平良同志会結成までに120人が渡航している⁷。

記事内に記載されている大城光助に関する記録を『海外旅券下付表』で確認すると、光助は大正13年（1924）に19歳でハワイに渡航した人物で、父や兄たちが先にハワイに渡航し、後に父親によってハワイに呼び寄せされている。字平良からのハワイ渡航者を見てみると、単身者よりも家族移民の方が多く大城光助一家も8名が渡航していた。家族単位の移民と単身移民らが協力し合い生活するために同志会結成に至ったと思われる。

後に平良同志会へ入会を希望した字高嶺のハワイ移民を見てみると、字平良に比べ渡航者数が非常に少ない。そのため、同志会は高嶺出身移民らにとって情報交換や相互扶助のための大きな役割を担っていたと思われる。昭和20年（1945）以前は大字制であり、字平良と字高嶺を合わせて大字「高良（たから）」として区分されていた。そのことから、大字の名をとり「高良同志会」として改められたのであろう。

なお、高良同志会は現在も100名ほどの会員を有しているが、細かな活動は未だ確認されていない。

⁷（詳しくは『移民編（本編）』P12参照）

調査で収集した写真

『移民編』編集のために行った現地調査で、収集した豊見城村関係写真です。紙面の都合上『移民編』には掲載できませんでしたが、当時を知る貴重な資料です。



1、比嘉亀一家

比嘉亀（字根差部、屋号は大久佐）は、明治39年（1906）に3年契約でハワイに渡った人物。その後、妻カミを呼び寄せている。（提供：セリーナ・比嘉）



2、長嶺保道一家

長嶺保道（字饒波、屋号は下仲加）は、明治39年（1906）に3年契約でハワイに渡っている。妻の金城ウト（屋号は朝儀）を後に呼び寄せ、2人の娘ハツコは比嘉ヨシオ（屋号は大久佐）の長男と結婚している。（提供：セリーナ・比嘉）



3、金城三良一家

金城三良（字高安）がハワイから帰国した後、ハワイに居る子どもたちへ送った写真と思われる。写真前列右から2番目が金城三良で、前列右から4番目が三良の母ウシ。大正～昭和初期頃に撮影されたものと思われる。（提供：サンディー・金城）



4、ハジチのある女性

女性の氏名は不明だが、金城三良の親族と思われる。撮影時期などは不明。

（提供：サンディー・金城）



5、座安徳成か徳幸の夫婦写真

座安徳長（字饒波、屋号は座安小）の兄弟の写真。次男の徳幸か、四男の徳成かは不明。徳成は元間切長（2代目）で『豊見城村史【復刻版】』に顔写真が掲載されているが、その写真と似ている。徳成が間切長であった時期に、豊見城尋常高等小学校を2校に分離することが決議されている。

（提供：アール・実雄・座安）



6、写真結婚の女性か

親族も写真の女性を知らないとのこと。おそらく沖縄から送られた「写真結婚」の写真と思われるが、詳細は不明。

（提供：アール・実雄・座安）



7、大城満栄の葬式

大城満栄（字保栄茂、屋号は徳前門）の石垣島での葬式の様子。満栄は15歳でハワイへ渡航し、その後、石垣島へ移住。パイン産業の立役者となった人物。石垣島で行われた葬式は、非常に大きなものであった。（提供：エイミー・光子・サキハマ）



8、琉装写真

おそらく提供者の親族であると思われるが、氏名などは不明とのこと。祖父母らの遺品として大切に保管している。（提供：エイミー・光子・サキハマ）



9、川原へ入植直前の上原恒正

上原恒正（字名嘉地、屋号は徳上沢岬）は、川原地域への移住の先駆けとなった人物。広い土地に憧れ、いとこの上原重雄と石垣島を訪れる。その際に見つけたのが、現在の川原地域がある土地であった。先遣隊に移民帰りの人を含めたことが、川原地域の繁栄のきっかけとなった。

（提供：上原恒正）



10、海軍に入隊した時の上原恒正

上原恒正は川原へ入植した後、召集され佐世保の海軍航空隊に入隊。長崎では原爆も目撃した。

（提供：上原恒正）



11、川原での歳祝い風景

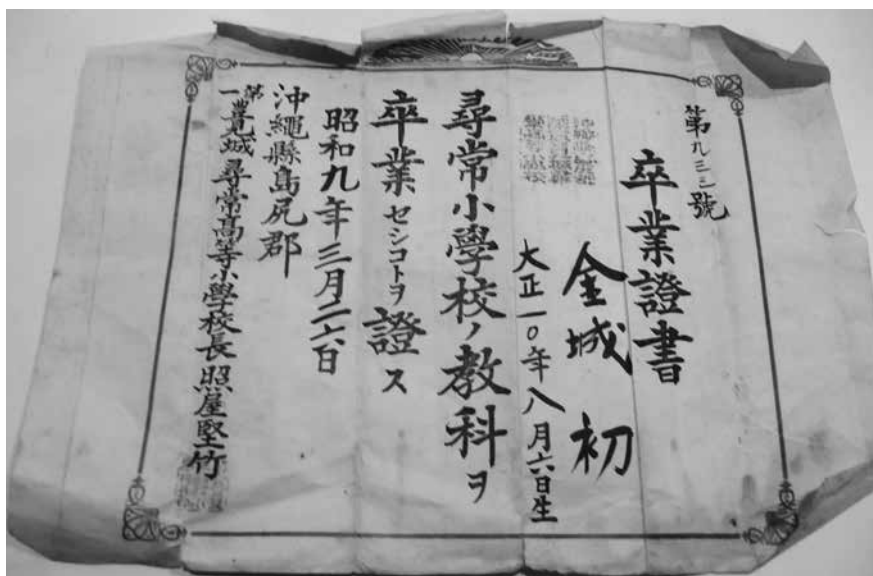
子ども達は余興をしたのか、写真中央の子どもたちは化粧をしている。

(提供：上原恒正)



12、川原小学校卒業写真（1960年）

昭和43年（1968）の全校生徒数は113人であったが、その後減少していき、現在は20人となっている。写真の時期はちょうど生徒が多い時期で、この翌年1月に創立20周年記念式典が行われた。（提供：上原恒正）



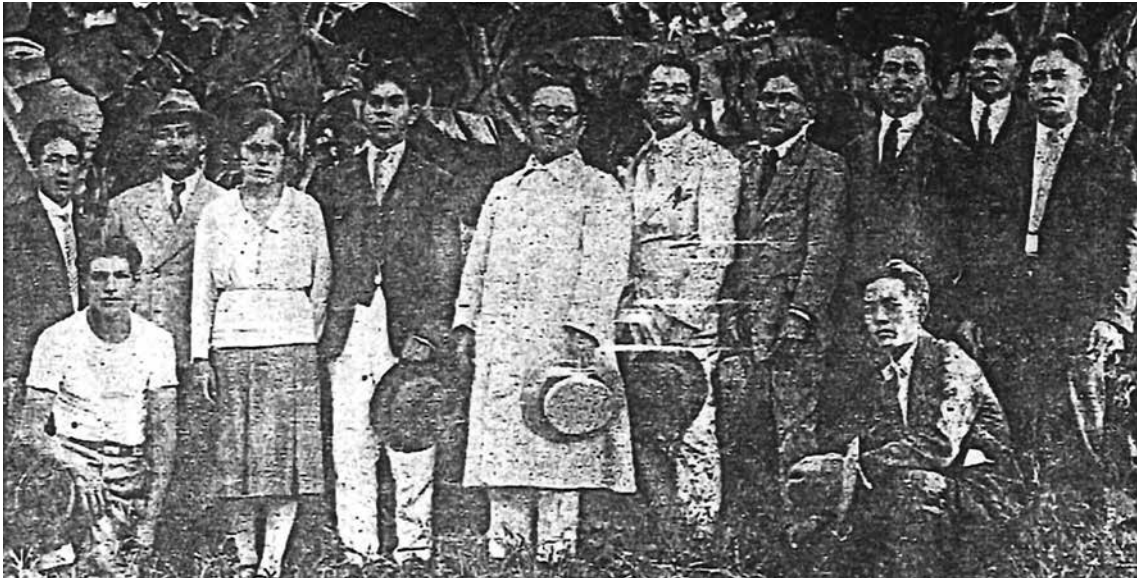
13、第一豊見城尋常高等小学校の卒業証書（昭和9年（1934））

金城初（字真玉橋、屋号は次男高良）は、昭和9年、卒業してすぐにブラジルへ渡航。戦争時には、日本語で書かれた書類がブラジル兵に取り上げられないよう、海辺に埋めて隠したという。一家は、100年以上前に製作された三線を今でも父の形見として保管している。（提供：ジョン・まさひろ・金城）



14、赤嶺新野栄が沖縄に再渡航した際の写真

赤嶺新野栄（字真玉橋、屋号は新里）は、明治45年（1912）に家族でブラジルへ渡った。行くあての無い沖縄からの移民を屋敷内に住まわせ、ポルトガル語を教えるなど日系社会の相談役として活躍した。写真は、60歳を迎えた新野栄が1度だけ沖縄に来た際のもの。写真前列右から3番目が赤嶺新野栄。（提供：赤嶺新野栄の孫一同）



15、漢那憲和と赤嶺新野栄

漢那憲和がブラジルに来た際、赤嶺新野栄の息子の家で歓迎会を行った。写真中央の漢那憲和の隣で、白っぽいスーツを着ているのが新野栄。この時から漢那憲和夫妻と親交があり、新野栄が日本に来た際には漢那夫妻が迎えたという。

(提供：赤嶺新野栄の孫一同)



16、宜保ヨネコ提供写真

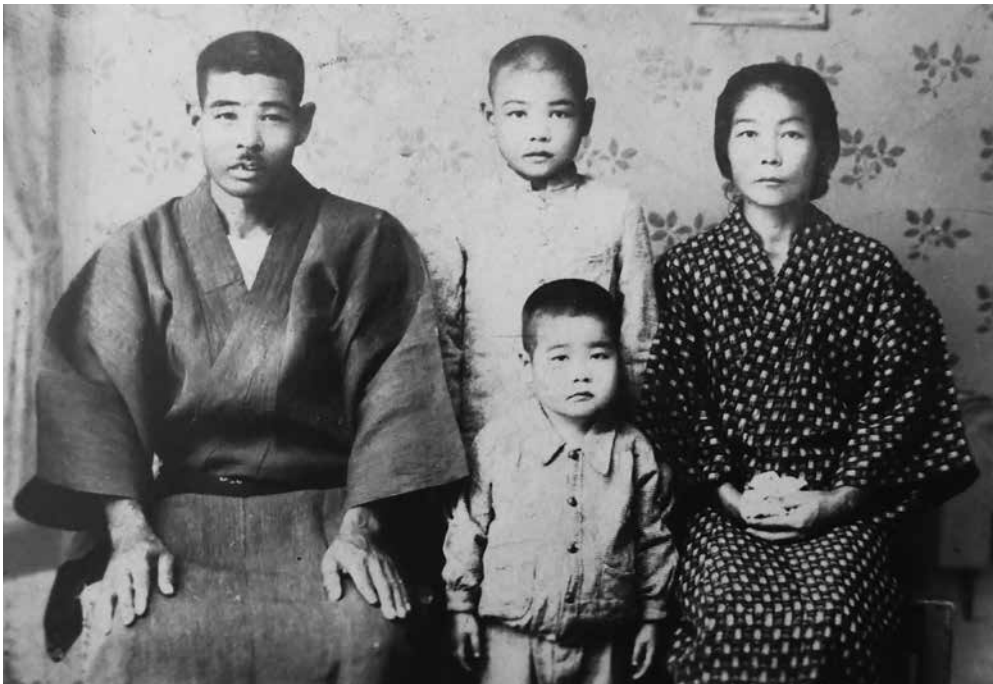
カンポグランデ在の宜保ヨネコ提供写真。宜保ヨネコの夫が、宇上田出身の宜保盛福（屋号不明）。盛福は13歳の時、叔父の宜保徳によりブラジルに呼び寄せられた。写真は何かの集まりだと思われるが詳細は不明。（提供：宜保ヨネコ）



17、天長節のお祝い

カンボグランデで行われた天長節祝いの写真と思われる。写真左にはブラジル国旗が掲げられており、中央には富士山と思われる絵が飾られている。

(提供：宜保ヨネコ)



18、宜保ヨネコ提供写真②

宜保ヨネコ所蔵の家族写真。詳細は不明。(提供：宜保ヨネコ)



19、渡航前の宜保盛福

宜保盛福（字上田）は13歳でブラジルへ渡航したが、その渡航前に撮影された写真。一緒に写っているのは家族と思われるが、詳細は不明。

（提供：宜保ヨネコ）



20、字真玉橋事務所落成祝い

カンボグランデ在の金城文子（字座安出身、屋号は南東リ内）は、字真玉橋出身の金城三良（屋号は三男徳上門小）と結婚、昭和9年（1934）にブラジルへ渡った。長男・幸吉が生まれたのを機に沖縄に帰郷、2～3年でブラジルへ戻る予定が戦争により15年間沖縄で過ごした。写真の裏には、「字真玉橋事務所落成祝 区長 比嘉信栄」というメモ書きがあり、比嘉信栄が区長であった1952～1956年頃の写真と思われる。

（提供：金城文子）



21、金城文子提供写真

戦後、豊見城村で撮影されたものと思われるが、詳細は不明。学校の卒業記念か？

(提供：金城文子)



22、ジューリオ・ヤスヒロ・金城提供写真

ジューリオ・ヤスヒロ・金城さんは、字真玉橋出身の金城保繁（屋号は六男上門小）とカナの長男としてブラジルで生まれる。この写真は両親が持っていたものだが、写っている人物については不明とのこと（提供：ジューリオ・ヤスヒロ・金城）



23、ジューリオ・ヤスヒロ・金城提供写真②

この写真を持っていた金城保繁（屋号は六男上門小）の親族と思われるが、詳細は不明。写真を保管しているジューリオ一家は、この写真の詳細について豊見城に知っている人がいれば教えてほしいと話していた。（提供：ジューリオ・ヤスヒロ・金城）



24、フィリピンでの家族写真

昭和9年（1934）頃、フィリピンで撮影された家族写真。写真左から平田雄政、カヨ、憲二、喜代子、誠幸。平田誠幸（字高安、屋号は新前仲平田）のフィリピンへの渡航は大正5年（1916）である。誠幸は太田興業株式会社の社員として働いていた。一家の旧姓は金城で、『移民編（証言・資料）』の「移民名簿」には、金城姓で掲載されている。

（提供：平田憲二）



25、高良亀のブラジル国

マットグロッセでの写真

高良幸助（字高嶺、屋号は仲高良）所蔵写真。幸助の叔父（父、岩助の弟）亀は、昭和8年（1933）にブラジルに渡航した人物である。写真は昭和20年（1945）頃にマットグロッセで撮影されたもの。亀は渡航当初は農業をやっていたようだが、その後の仕事は不明。

（提供：高良幸助）



26、高良亀一家

昭和25年（1950）頃、サンパウロで撮影された高良亀一家の写真。マットグロッセからサンパウロに移動したのであろう。（提供：高良幸助）



27、嘉数亀二一家

嘉数亀二(字金良、屋号は前仲加)は、昭和16年(1941)に中国の海南島へ渡った人物。戦争時、春(亀二の妻)は着物の帯にこの家族写真を巻いて逃げたそう。

(提供：赤嶺恵子)



28、アルゼンチン出発時の写真(戦後)

戦後、大城正浩(字長堂、屋号は新西仲)がアルゼンチンへ移住する直前の写真。横浜海外移住センターで数日研修を受けた後、アルゼンチンへ渡った。

(提供：大城正浩)



29、當銘保二一家

當銘保二（字保榮茂、屋号は仲百次）は、昭和4年（1929）に台湾に渡った人物。前列右から當銘保二（33歳）、輝子（7歳）、保晴（4歳）、ヤエ子（2歳）、キヨ（27歳）、後列は長知（25歳）。昭和15年（1940）正月元旦に、台中にて撮影されたもの。（提供：當銘保晴）



30、外間安加帰郷歓迎会

外間安加（字高安）は、明治39年（1906）にハワイへ渡航した父・外間安助の呼寄せにより大正元年（1912）にハワイへ渡航した人物である。安加の兄弟のカメ、安昌もハワイへ渡航している。（提供：外間安一、高安自治会）



31、赤嶺ハツ、赤嶺礼子、ルイポールターレ帰郷記念（1995年）（字嘉数）

（提供：安西孝雄）



32、仲里家帰郷記念（平成3年（1991））（字嘉数）

（提供：安西孝雄）



33、大嶺登市氏帰国記念（前之平同窓会一同）

大嶺登市（字豊見城、屋号は新沢岬）は、昭和3年（1928）にハワイへ渡航した人物である。登市の弟・丁相もハワイへ渡航している。昭和10年（1935）、ハワイで「豊見城村人会」が組織されるが、登市も組織者の一人であり、初代副会長を務めた。後に豊見城村へ帰国している。（提供：安西孝雄）



34、ブラジル移民新垣勝広送別記念

新垣勝広（字長堂）は、昭和34年（1959）に両親と共にブラジルへ渡航した人物である。勝広は渡航時は19歳であった。（提供：宮城右勲）



35、仲村渠勝彦氏の南米行記念

仲村渠勝彦（那覇市出身）は、昭和19年（1944）の十・十空襲を受け、家族で豊見城村字宜保へ移住。字宜保出身の金城信子（屋号は座安殿内）と結婚、昭和32年（1957）にボリビアへと渡った。一家はコロンビアオキナワの第一移住地に居住していた。（提供：金城隆和）



36、仲村渠勝彦激励会（1976年）（字宜保）

（提供：金城隆和）



37、具志堅右保送別記念（1957年）

（提供：金城隆和）



38、大城孝助ご夫婦 来島歓迎会記念（平成4年（1992））（字上田）

（提供：大城達宏）



39、送別会 宜保睦親、かし子ご夫妻

宜保睦親（字上田）一家は、戦後ブラジルに渡った。昭和35年（1960）に睦親の子ども達（写真40）と睦親の母ウシが、そして昭和37年（1962）には睦親夫妻と下の子ども達が渡っている。（提供：宜保直志、大城達宏）



40、宜保秀雄、勇、加代子さん渡伯記念（1960年）（字上田）

（提供：上田自治会）



41、大城永吉渡伯記念撮影

大城永吉（字上田、写真左）は、大正15年（1926）にブラジルへ渡った人物。永吉の娘のジュリア・アセト・大城（ブラジル在）らによると、ブラジルに行けば農地が配分されると聞いたが実際には配分されず、鉄道工夫として働いていたそう。お金を貯めて農地を買い、野菜作りで9人の子ども達を育て上げた。なお、写真中央は宜保弘助。

（提供：宜保直志）



42、宜保寛良氏母国訪問記念（1966年）

宜保寛良（字上田）は、大正6年（1917）にブラジルへ契約移民として渡った人物。字上田から最初のブラジル渡航者は、明治41年（1908）の大城幸喜・カメ夫妻（屋号は新門）らであるが、その後に上田から渡ったのが宜保寛良であった。

（提供：宜保直志）

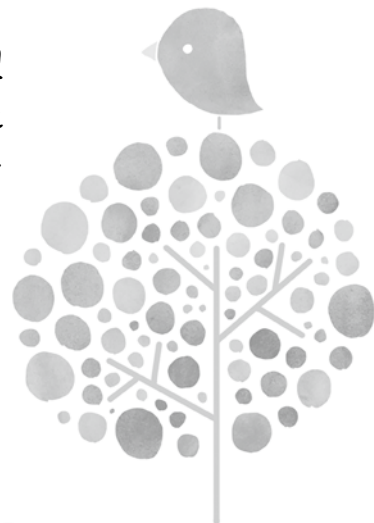


43、ハワイ在住（富、良健、忠夫）沖縄訪問歓迎記念（2001年）（字上田）

（提供：宜保直志）

○写真ナンバー 30～43までの写真は、平成28～29年度に行ったフィルム資料収集事業（沖縄振興特別推進市町村交付金事業）で、個人、自治体より提供いただいたものです。

市民のみなさま、海外在住のトミグスク
ニチュのみなさま、市史編集へのご理
解・ご協力ありがとうございました。提
供いただいた写真は、今後の市史編集に
役立てていきたいと思ひます。



ルーツ探しに『移民編』を利用する方法

「自分の両親の事を知りたい」「祖父母についての資料を探している」など、文化課には市内・海外からの問い合わせ、相談が来ることがあります。家族に移民者がいる場合は、『移民編』を活用することで、そのルーツを調べることができます。今回は、その方法をご紹介します。

①『移民編（証言・資料）』の移民名簿を確認する

『移民編（証言・資料）』には、戦前からの移民名簿を掲載しています。これは、さまざまな資料から豊見城村出身者のみを抽出し掲載したものです。この移民名簿は渡航先別となっているので、調べやすくなっています。もし、行った国名がわからない場合は、住所で検索をすることができます。ただし、豊見城村は戦前は大字制となっています。大字での住所が必要になってきますので、戸籍等の資料を揃えておきましょう。海外在住者から依頼され、戸籍を持っていない場合は、1世のパスポートの記録があるかを確認しましょう。そこに大字での旧住所が掲載されています。ここでは、例としてハワイ移民の「大嶺登市」を調べてみます。

〔移民名簿での記載より〕

大嶺登市
旅券番号は90474 / 身分は「戸主盛俊長男」 / 本籍地は「豊見城208」

移民名簿から、戦前の住所である「豊見城 208」を知ることができました。次に、「豊見城 208」を移民名簿全てから検索していきます。そうしたところ、下記の人物がヒットしました。

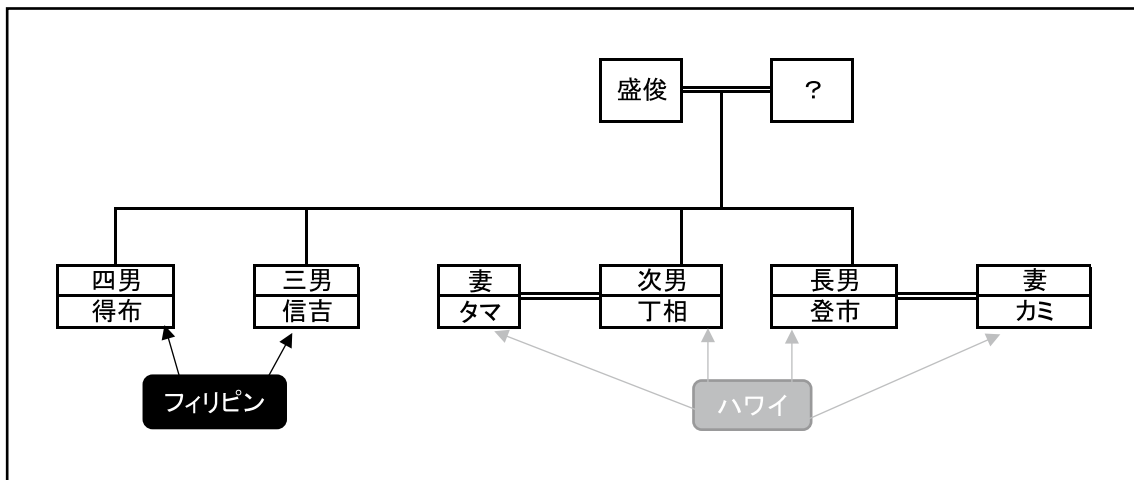
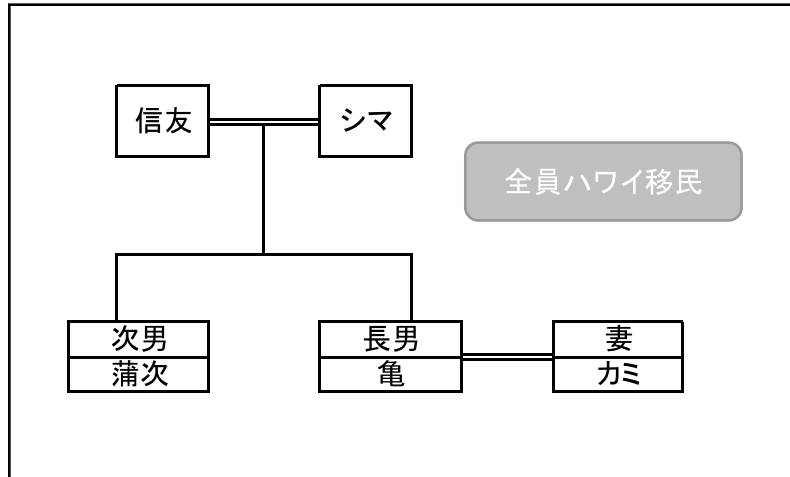
〔ハワイ〕

- ①大嶺シマー戸主信友妻
- ②大嶺信友戸主
- ③大嶺亀 一戸主信（精）友長男
- ④大嶺蒲次一戸主信友二男
- ⑤大嶺カミ一非戸主亀妻
- ⑥大嶺丁相一戸主盛俊二男
- ⑦大嶺タマー（丁相）妻
- ⑧大嶺カミ一戸主盛俊長男登市妻
- ⑨大嶺登市一戸主盛俊長男

〔フィリピン〕

- ①大嶺得布一戸主盛俊四男
- ②大嶺信吉一戸主盛俊三男

以上の情報から、2つの系図ができました↓↓↓



2つの家庭がどのように繋がっているのかは戸籍に記載されていると思いますが、移民者だけではなく、移民者の父親や母親、祖父母の氏名が移民名簿の〔身分〕の欄に記載されていることが多く、そこからその人の上の代を調べることができます。

②字誌を確認してみる

字豊見城の場合、自治会で平成 22 年（2010）に『豊見城の字誌』を発刊しており、この字誌も同時に活用するとより細かな情報を調べることができます。字誌に記載されている「戦没者名簿」から、フィリピンへ行った大嶺得布が戦死していたことが分かりました。

③移民先で発刊された資料などを活用する

これまでの調べで、「豊見城 208」の家族はハワイに多く移民していることがわかりました。『移民編（本論）』では、昭和 10 年（1935）に発足された「豊見城村人会」の初期の会員名簿を掲載しているので、その名簿を確認します。119 ページに掲載されている名簿に、大嶺登市と丁相兄弟の名前が掲載されていました。2 人が豊見城村人会の会員であったことがわかったので、ここからは現地の資料を使います。ハワイの場合は、以下のホームページが参考になります。

豊見城村人会：<http://www.huoa.org/nuuzi/clubs/tomigusuku.html>

このページにアクセスすると、豊見城村人会の初期のメンバー名が出てきます。その中に、大嶺登市と大嶺丁相 2 人の名前が記載されています。このことから、この 2 人は豊見城村人会を発足するための尽力者だったことが分かります。

The screenshot shows the website for the Hawaii United Okinawa Association (HUOA). The main header features the organization's name and the slogan "Hiyamikasa" (ひやみかさ) "Rallying Together for Everyone's Success". Below the header is a navigation menu with options like Home, About HUOA, Information, News & Gallery, Banquet Facility, Giving, and Get Involved. The main content area is titled "TOMIGUSUKU SONJIN KAI HUOA MEMBER CLUB". It lists the club's history, including the year started (1935) and the names of the original organizers and officers. A list of past presidents is provided, with arrows pointing to the names of Tokko Nagamine (1935-38) and Teiso Omine (1951-52). A text box with arrows pointing to these names contains the Japanese text: "ここに2人の名前を確認することができます。" (You can confirm the names of the two people here.)

Year Started	1935, with approximately 75 member families.
Organizers	Tokko Nagamine, Toichi Omine, Kana Kaneshiro, Yasukichi Nagamine, Teiso Omine.
Original Officers	Tokko Nagamine, president; Toichi Omine, vice president; Yasukichi Nagamine, secretary; Teiso Omine, treasurer.
Past President	Tokko Nagamine (1935-38) Toichi Omine (1939-47, 1945-46) Kamado Oshiro (1943-44) Jizo Oshiro (1947-50) Teiso Omine (1951-52) Fukuseti Hokama (1953-54) Jack Tomei (1955-56) Kamesuke Higa (1957-58) Ritoku Oshiro (1959-60) Yasuo Gushi (1960-61) Tokuichi Oshiro (1962-63, 1972-73) James Senaga (1964-65) Tokushi Oshiro (1966-67) Kenneth Tomei (1976-71, 1974-79)
Notes	Notes by Yasuo Gushi: (1) In the years prior to World War II, Okinawan sumo matches were always an exciting highlight of the annual picnics sponsored by the Tomigusuku Sonjin Kai. Okinawan sumo differs from Naichi sumo. We win a match in Okinawan sumo, a wrestler must pin both shoulders of his opponent to the ground or floor rather than push him out of a circle. (2) At the end of World War II, the Tomigusuku Sonjin Kai participated in the various relief programs to aid Okinawa. Members collected clothes and raised money to purchase relief items such as school supplies, medicine, pigs and milking goats. Clothing that was collected by the club members to be sent specifically to Tomigusuku-son was distributed so that even the aza that did not have a sizable representation in Hawaii were provided for. (3) From about 1955 the nisei began to assume the leadership of the club.
Newsletters	2010 Spring-Summer 2008 Fall-Winter 2011 Winter-Spring

以上のように、「移民名簿」から得た情報を元にハワイ移民の「大嶺登市」を調べてみました。「移民名簿」では、大嶺登市の父親の名前が「盛俊」であることや、登市には男兄弟がおりそのうち2人がハワイへ、もう2人がフィリピンへ渡った事がわかりました。また、その妻の氏名も確認できました。これら情報を元に、『移民編（本論）』とハワイ沖縄連合会のホームページを調べると、登市と弟の丁相が、豊見城村人会の発足にたずさわっていたことがわかりました。その後、会長を務めていたこともわかりました。

「移民名簿」を利用すると、その人がどの地域へ渡ったのか、いつ頃渡ったのか、何歳で渡ったのか、など基礎情報を知ることができます。それと同時に、「大嶺登市」のように父親の氏名が出て来たり、住所を頼りに調べると他の親族の記録が出て来ることがあります。これら情報を得た場合には、下記の資料も参考にしてください。国・地域によって情報量が異なりますが、下記の資料は、ルーツに関する問い合わせの際に実際に使用してきた資料です。『移民編(本編)』には、参考文献も掲載しておりますので、併せてご利用ください。

ルーツ探しのため、使用してきた資料・ホームページをご紹介します

以下の資料は、「みーぐるぐるサーチ 沖縄県図書館横断検索」にて検索し、所蔵が確認できます。

【ハワイ】

①『新聞にみるハワイの沖縄人 90年 一戦前編』

②『新聞にみるハワイの沖縄人 90年 一戦後編』

個人名の記載が多い資料。名簿ではないが、当時の移民たちの動きを知ることができる資料。事件、事故の記事の他にも、各村人会、県人会活動の記載も多い。

③ ハワイ沖縄連合会のホームページ (<http://www.huoa.org/nuuzi/index.html>)

豊見城村人会のページを確認したい場合は、

Information → HUOA Clubs&History → Tomigusuku Sonjin Kai

と進めば、確認することができる。

【北米】

①『北米沖縄人史』

個人名の記載が多い資料。

【カナダ】

①『カナダ・アルバータ州に於ける沖縄県人会の歩み』

冒頭で扱った「座安久松」と「座安松」に関することは、この資料をもとに記載した。

②『大陸日報』

現地で発行された邦字新聞。ブリティッシュコロンビア大学のオープンコレクションで閲覧可能。今回扱った「座安久松」「座安松」の現地での動きは、この新聞から調べたもの。URLは <https://open.library.ubc.ca/collections/tairikunipp>

【ペルー】

①『ペルー移民七十五周年記念誌』

この中にある「ペルー渡航者名簿」には、船名、日本出発日、到着日、配属耕地が記載されている。

② 移住資料ネットワーク化プロジェクト

下記のホームページから「Pioneros ペルー日本人移民データベース」へ進み、言語を選択したのち、検索したい人物名や都道府県を選択すると、①の資料と同様の情報が得られる。「日本語」を選択しても、氏名はローマ字で打ち込む必要がある。氏名の読みが間違っていて登録されている人もおり、多数の読み方が予想される氏名の場合は注意が必要。URLは http://www.jomm.jp/dnp_peru/entrance.html

【ブラジル】

①『ブラジル沖縄移民誌』

②『ブラジル沖縄移民名簿』

両資料は1987年に発行されているもので、『ブラジル沖縄移民誌』では、「各線入植地の沿革」で初期移民の動きを知ることができる。また、『ブラジル沖縄移民名簿』では船名、日本出発日、到着日、駅名、路線名などの記載があり、より細かに知ることができる。

③『ブラジル沖縄県人移民史 笠戸丸から90年』

日本から最初の移民である「笠戸丸移民」を調べるために使用。「配耕以後90年の足跡」では、沖縄県からの初期移民の氏名や現地での動きを知ることができる。

【フィリピン】

①『比律賓概要と沖縄縣人』

沖縄県内各市町村からのフィリピン移民の氏名を確認できる。『移民編（本論）』のフィリピンの項でも記載しているが、「海外旅券下付表」で確認できない渡航者は、この本を基に確認していった。豊見城村の場合、「海外旅券下付表」で確認できなかった53人の渡航をこの資料から確認できた。

【満州】

- ①『沖縄と「満州」「満州一般開拓団」の記録』
開拓団ごとの動きを細かく調べることができる。

【八重山開拓（川原）】

- ①『川原入植五十周年記念誌』
川原自治会で編集・発刊された記念誌。開拓当時の写真や、初期開拓者の写真、川原に住む各家庭の紹介など、細かく記載されている。

【ボリビア】

- ①『一九六四年八月ボリビア移民十周年 十年の歩み』
入植してからの動きや、コロニア沖縄農業協同組合の名簿などが記載されている。
- ②『ボリビア・コロニア沖縄入植二十五周年誌』
「移住者名簿」が家族単位で記載されている。異動内容、現況を調べることができる。
- ③『コロニア・オキナワ 30年の歩み 1954-1984』
1984年7月現在の「移住者名簿」が記載されている。
- ④『コロニア・オキナワ入植50周年記念誌 ボリビアの大地に生きる沖縄移民』
「移住者名簿」の記載があり、現住所の記載もある。また、死亡者の欄には死亡と記載されている。結婚、子どもの有無などの記載がある。

【豊見城村史、豊見城市史】

- ①『豊見城村史【復刻版】』
「歴代の地頭代、間切長、村長一覧」「各字歴代区長一覧」などを利用。
- ②『豊見城村史 第2巻 民俗編』
海外からのルーツ探しの際に使用。屋号地図から1世の家の場所を確定したり、門中を確認するために使用。門中などが確認できた後は、自治会に協力をいただき親族との面会に繋げた。
- ③『豊見城市 第3巻 新聞集成編』
巻末の「人名索引」を利用。
- ④『豊見城村史 第6巻 戦争編』
戦争直前の情報収集のために利用。各字の項目では、沖縄戦直前にすでに移民していた家が記載されているため、屋号の確認や満蒙開拓団に関して調べるのに利用した。

【その他】

① 「平和の礎」

調べたい住所で、戦没者が出ていないかを調べることができる。

② 各自治体が発行している字誌

	発行年	字誌のタイトル	発行自治会
1	H11 (1999)	高安誌 上巻	高安自治会
2	H13 (2001)	保栄茂ぬ字史	保栄茂自治会
3	H13 (2001)	上田誌	上田自治会
4	H20 (2008)	与根字誌	与根自治会
5	H22 (2010)	豊見城の字誌	豊見城自治会
6	H27 (2015)	高嶺字誌	高嶺自治会
7	H27 (2015)	豊見城市嘉数字誌 絆	嘉数自治会

『移民編』の編集集中に行ってきたこと

『移民編』編集集中には、編集業務以外にも様々なことを行ってきました。

①親族探し

「戦前にペルーに行った親族を探している」という問い合わせや、「自分のルーツである家が今どうなっているか知りたい」「沖縄にまだ親族がいるのか知りたい」といった海外からの問い合わせにも対応してきました。親族の中には、外国語しか話せない3世4世との面会を拒否する人、「会いたかったよ～」と温かく迎える人など反応は様々でした。糸満市や県立図書館とも協力して行うこともあり、親族と会えた時には涙を流して抱擁する姿を何度も見てきました。彼らの多くが先祖の墓参りを希望しているため、そのお墓を探すため各自治会にも協力をいただきました。



世界のウチナーンチュ大会期間中に、初めて親族に会えた赤嶺パトリックさん（写真左／ハワイ在）。急な訪問にも関わらず、親族に温かく迎えられた。

②子弟研修生のサポート

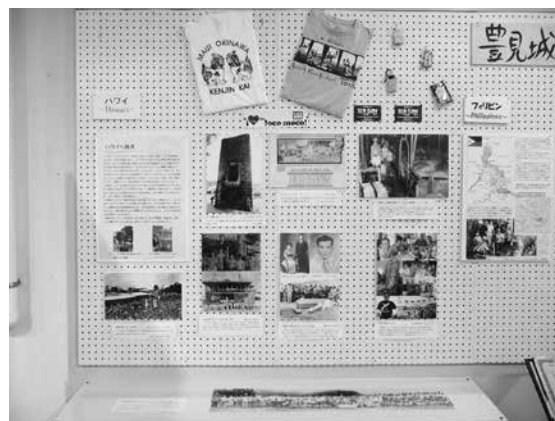
海外移住者子弟研修生の中には、日本語や沖縄の文化を学ぶことを目的としていますが、自身の親族やルーツに関する場所を知りたいという声もあります。そういった彼らの希望に応えるべく、収集した名簿資料を基に関連地域や親族を特定し、親族と面会の場を設けるなどサポートをしてきました。また、研修生には『移民編』編集にも協力をいただき、インタビューを行ったり資料提供をいただきました。

③移民展の開催

『移民編』編集期間中、得られた情報や資料を広く公開するため事業開始時から展示会を開催してきました。また、広く情報提供を呼びかけるべく「歴史民俗資料展示室」内の常設展示の1つとして移民コーナーを設け、収集してきた資料を展示しました。この展示は、引き続き行っていく予定です。

実施年	実施期間	タイトル	開催場所
H18 (2006)	9/15~10/6	豊見城と移民 —戦前期に海を渡ったトミグスクンチュ—	市役所 1 階ロビー
	2018/10/13		第 4 回世界のトミグスクンチュ 歓迎会会場 (中央公民館大ホール)
H21 (2009)	9/1~9/18	「わたしたちもトミグスクンチュ!!!」 —『豊見城市史移民編』現地調査報告展—	市役所 1 階ロビー
H23 (2011)	9/30~10/7	「わたしたちもトミグスクンチュ!!!」 —『豊見城市史移民編』現地調査報告展—	市役所 1 階ロビー
	10/11~10/16		第 5 回世界のトミグスクンチュ 歓迎会会場 (中央公民館大ホール)
H28 (2016)	10/24~10/30	世界に羽ばたいた豊見城人たち	第 6 回世界のトミグスクンチュ 歓迎会 (中央公民館 1 階ロビー)

※上記以外の年は、「歴史民俗資料展示室」内にある移民展示の入れ替え・作成を行った。



上左：企画展（2009）
 上右：とみぐすく祭り会場（販売促進）
 中左：企画展（2011）
 中右：歴史民俗資料展示室
 下：歓迎会での展示（2016）

④広報とみぐすくへの記事掲載

平成16年(2004)～平成29年(2017)まで計23回、移民関連記事を掲載しました。
 以下は、掲載年月とタイトル、執筆者一覧です。

	発行年	タイトル	関連地域	執筆者
1	H16(2004)6月号	海を渡った豊見城の人々～移民・出稼ぎの調査を開始～		稲福政斉
2	H16(2004)8月号	石垣島・川原への開拓移住	川原地域	稲福政斉
3	H18(2006)8月号	トミグスクンチュが帰ってくる！！ -「第4回世界のウチナーンチュ大会」-		赤嶺みゆき
4	H20(2008)2月号	八重山開拓移住の現地調査	川原地域	赤嶺みゆき
5	H20(2008)5月号	めんそーれー、ブラジルんかい！！	ブラジル	赤嶺みゆき
6	H20(2008)11月号	ブラジル・ボリビアへ移民調査に行ってきました！	ブラジル/ボリビア	赤嶺みゆき
7	H21(2009)7月号	ブラジルにトミグスクンチュの名前がついた通りがある？	ブラジル	赤嶺みゆき
8	H21(2009)11月号	大城満栄(八重山川原自由移民)とパイン産業	八重山	鳥山やよい
9	H22(2010)7月号	石垣島川原への開拓移民者 上原重秀の活躍	川原地域	當銘涼子
10	H22(2010)9月号	「いざ！憧れの地フィリピンへ」 ～フィリピンへ渡ったトミグスクンチュ～	フィリピン	比嘉香織
11	H23(2011)1月号	ハワイの「豊見城村人会」を知っていますか？	ハワイ	赤嶺みゆき
12	H23(2011)3月号	ハワイの関取・長久山 當間長喜さん (字保栄茂出身、ハワイ移民2世)	ハワイ	鳥山やよい
13	H23(2011)8月号	「ソテツ地獄から抜け出せ！」～国内出稼ぎ～		比嘉香織
14	H24(2012)4月号	新聞記事にみる豊見城 沖縄初の大陸の花嫁	満州	當銘涼子
15	H24(2012)12月号	新聞記事にみる本土集団就職者たち	大阪	親川裕子
16	H25(2013)6月号	豊川忠進と関西沖縄県人会	大阪	鳥山やよい
17	H25(2013)10月号	トミグスクンチュが移民したニューカレドニア	ニューカレドニア	親川裕子
18	H26(2014)2月号	焦土と化した沖縄を救え！	ハワイ	親川裕子
19	H26(2014)6月号	ブラジル国カンポグランデと豊見城市のふか～い関係！	ブラジル	赤嶺みゆき
20	H27(2015)2月号	ウーヰトーシの季節到来！！	南洋群島	當銘涼子
21	H27(2015)12月号	十二月八日 運命の日		鳥山やよい
22	H28(2016)4月号	県下15位の移民者数(57市町村中当時)		親川裕子
23	H29(2017)2月号	『豊見城市史 第4巻 移民編』を発刊しました！		赤嶺みゆき

⑤「豊見城市史だより」、「まだま」の発行

発行年	市史だよりタイトル	内 容	執筆者
H17(2005)	豊見城市史だより 第8号	豊見城における初期の海外移民 -『豊見城村史』の再検証を中心に-	稲福政斉
H19(2007)	まだま 第1号	第4回世界のウチナーンチュ大会関連のとりくみ 歓迎会での聞き取り調査と移民関連展示について	赤嶺みゆき
H22(2010)	豊見城市史だより 第10号	八重山開拓移民	赤嶺みゆき、鳥山やよい 比嘉香織、當銘涼子
H30(2018)	豊見城市史だより 第13号	カナダで消えた座安久松の行方 豊見城村から最初に海外へ渡航した人たち 「高良同志会」結成について	赤嶺みゆき

※『移民編』関係の号のみ掲載

⑥青少年国際交流事業への協力

派遣前の事前研修の1つとして、ハワイ移民に関する講座を平成25年（2013）から受け持っている。

『移民編』への感想紹介

移民編に関する感想を
たくさんいただいたよ！



『移民編』を発刊後、多くの人から感想をいただきました。その一部をチョットご紹介。

ハイサイ。今回、豊見城市から移民の本を受取り、驚いています。この本により、私たちはもっとルーツを調べることができるようになりました。実はすでにこの『移民編』から自身のルーツを知ることができた方がいます！イッペーニフェーデービル。
—ハワイ系図研究会より

本を手に入れて2ヶ月ずっと読み続けています。自分たち以外にも、こんな体験をした人がいたんだと驚きました。体験談の人数が多く本当に読み応えのある本で、長い時間をかけて作ってくださった教育委員会に感謝します。この本がきっかけで他の引揚者とも連絡を取り合って当時の話をしています。みんないろんな体験をしていたんだと、初めて知りました。
—フィリピン引揚者（宇渡嘉敷／2世）

2、3日前に、ブラジルの私の自宅に移民編が届きました。豊見城市の親切心に心から感謝しています。早速本を見てみましたが、自分達が戦後住んでいた真玉橋の「新里」という家が、あの赤嶺新野栄さんの自宅だったとは知らず、その方の家に住んでいたのかと感激しました。証言などを見て、もう涙が出ました。非常に感激しております。実は昨日、本に載っている外間ハツさんの葬式があつて、お墓でサンパウロにいるハツさんの兄弟、文子さん、ジョン・まさひろさんとも会いました。彼らも本が届いていると言って、とても喜んでおりました。こうしてまとめてくださったこと、本当に嬉しく思います。私の子どもたちはポルトガル語しか話せないのので、日本語を教えればよかった、方言を教えればよかったと今更ながら後悔しました。デカセギで日本に行った息子からも、この本のことで連絡がありました。

—金城幸吉・ジェイミさん（宇真玉橋／2世）

この本を発刊したと聞き、非常に感動しました。豊見城市から移民調査に来たとき、私の祖父・勝連ひろしが通訳や案内に携わりました。その祖父は調査のあと亡くなりましたが、豊見城市の移民史のことを気にしていました。豊見城市で出たこの本は、豊見城市、沖縄だけではなくブラジルに住む私たちにもとても意味あるものです。1世や2世は、私たちのために朝から晩まで働き、だから私たちは今ではブラジル人と対等に仕事をし、生活することができています。彼らの努力・犠牲があったことを記録に残すことで、これから世界に羽ばたくトミグスクンチュにとって貴重な資料になるでしょう。日系人の1人として、豊見城市の行った調査・本の編集に敬意を表します。調査風景のDVDを見て、とても感情的になりました。これは私にとって今までで一番のプレゼントです。これらが私たちにとってどのくらいの意味があるものかわからないかもしれませんが、それくらい私たち家族にとって大切なものです。この事業に関わったことを、本当に嬉しく思います。

—シモネ・勝連（羽地村／戦後3世）

今回、「世界のトミグスクンチュ歓迎会」に参加しました。2回目の参加ですが、今回が1番良い歓迎会でした。それは、移民の本をいただけたからです。私は13歳でブラジル・カンポグランデから日本に来て、その時「日系人」であることで差別というか、そのような目で見られてきました。だから、沖縄の親族からもきっとそうみられるだろうと思い、怖くて今まで行くことが出来ませんでした。でも、5年前に初めて勇気を出して沖縄へ行った時、真玉橋の親族に初めて会って、「何で今まで来なかったの」と言われ、とてもビックリしました。本を作るのに時間をかけて取材して記録してくれたことに対し、非常に感動しました。しかも、移民した方の取材のために南米、ハワイまでの旅費を出したことに非常に感動しています。本に掲載されている各インタビューを読んだけど、それを見て思ったのが私たち3世、4世は1世の記録をほとんど分からないことです。1世のことについて、今の3世、4世はあまり興味をもっていません。だから、カンポグランデの県人会で会長をしているイトコに連絡して、豊見城市のこの本について話しました。歓迎会と一緒に参加したアレックスとも「自分たちも何かしないといけないよ」と話し合っています。どういったことができるかわからないけど、自分たちは日本語ができるのでカンポグランデと豊見城市を繋ぐ何かができないかと今よく話し合っています。本の中には、すでに亡くなっている方もいるので、彼らの子孫は非常に喜ぶでしょう。これからもどんどん若い世代のトミグスクンチュが豊見城市を訪れると思うので、彼らのためにも引き続き頑張ってください。

—パウロ・金城（字真玉橋／3世）



この本を見て、両親や当時お世話になった方を思い出しました。私たちは本当に貧乏で大変だったんです。貧乏を隠すために、辛い時代もありました。引揚者でしたので、当時は面白おかしく見られたものです。今は、兄弟は沖縄と外国とで離れ離れですが、外国で大きな会社に勤めている兄弟もいます。この本には、辛い時期にお世話になった先生も載っていて驚きました。もう長い事お会いしたことはありませんが、会いに行ってみようと思います。

—南洋群島引揚者（字座安／2世）

私の父がペルーでこのような役割・仕事を行っていたことを、本を読んで知りました。私は2世ですが、当時は大人が集まって何かしている、という意識しかありませんでした。今回、移民史を作るということで父に関する情報を提供しましたが、父にこのような歴史があったことは知りませんでした。また、父の若い時の写真なども探していただき、本当に嬉しく思いました。それぞれの方がこうして移民に関する資料を持っていたこと、本当によかったですね。私の親族も父と同じペルーに居ましたが、彼はどうなっているんだろうかと想いを馳せました。もう少し調査が早ければ・・・と思いましたが、私自身ももっと両親に話を聞いておけばよかったと、感じています。

—ペルー引揚者（字真玉橋／2世）

市民のみなさま、そして海外のトミグスクンチュのみなさま、たくさんの声をありがとうございました！！



『豊見城市史』、「市史だより」の紹介



『豊見城市史』ってなあに？

『豊見城市史』は、私たちの祖先がこれまでに築き上げ、今なお、受け継がれている歴史や文化、生活、環境、教育などを記録したものです。

おじいさんとおばあさんが生きた時代の生活、自分たちが通った学校の歴史、家の近くにあるあのシーサー・・・など、みなさんは身近な人・モノ・風景にどんな歴史があるか知っていますか？

自分の身近な歴史に触れることができる、それが『豊見城市史』です。私たちは、市民のみなさまに親しまれる市史作りを目指し、日々変化する「豊見城」を記録しています。

販売中の市史（村史）および写真帳

- | | |
|------------------|--------|
| ①豊見城村史【復刻版】 | ¥2,000 |
| ②豊見城市史 第2巻 民俗編 | ¥3,000 |
| ③豊見城市史 第3巻 新聞集成編 | ¥3,000 |
| ④豊見城市史 第4巻 移民編 | ¥3,000 |
| ⑤豊見城村史 第6巻 戦争編 | ¥3,000 |
| ⑥豊見城村史 第9巻 文献資料編 | ¥3,000 |
| ⑦とみぐすく写真帳 | ¥2,000 |

豊見城市史刊行物



文化課で購入できます！

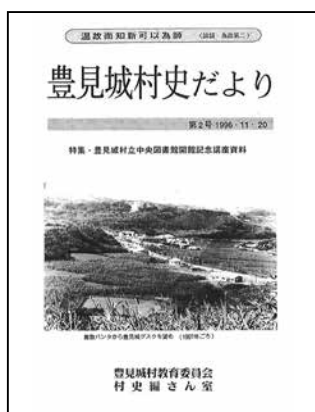
市史だよりの最新号は「歴史民俗資料展示室」で無料配布中です。最新号以外は、市のホームページからPDFファイルとしてダウンロードできます。ぜひ、ご活用ください。



創刊号（1995年発行）

口上覚（原文と読み下し）
毛氏家譜を読む・毛氏家譜抄録
とみぐすく写真・生活資料展について
沖縄県地域史協議会の研修に参加して

豊見城村史だより創刊号PDF



第2号（1996年発行）

「山南王国」と豊見城について
組踊「未生之縁」について
「とみぐすく」の地名について

豊見城村史だより第2号PDF



第3号（1997年発行）

豊見城村の戦没者（平和の礎より分析）
部落を挙げて集団疎開
山原疎開について
学童疎開体験記
私の戦争体験記
学生時代の青春
沖縄戦十七歳の防召兵
「大城盛昌日記」について

豊見城村史だより第3号PDF





第4号（1999年発行）

豊見城村における「防衛招集」の概要
 字ごとによって異なる戦争体験
 ～沖縄戦字別実態調査について～
 戦時下の字上田
 戦時下の字瀬長
 与根の塩づくり

豊見城村史だより第4号PDF



第5号（1999年発行）

海軍電報について（解説）
 （資料）海軍電報（「電報綴 南西諸島」・
 「南西諸島方面電報綴」）より

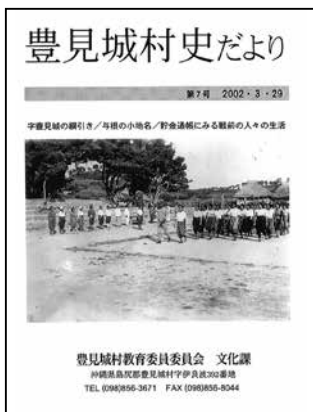
豊見城村史だより第5号PDF



第6号（2001年発行）

豊見城村字高安の概況
 龕と龕ゴウ祭について
 豊見城村字高安の龕ゴウ祭観察記録

豊見城村史だより第6号PDF



第7号（2002年発行）

7年ぶりのワラジナ、字豊見城の綱引き
 豊見城村字与根の小地名
 「郵便貯金通帳」にみる戦前の人々の生活
 ～国民貯蓄運動と豊見城村民～

豊見城村史だより第7号PDF

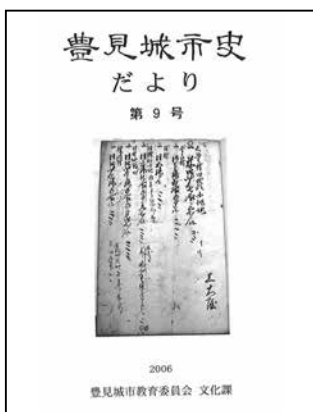




第8号 (2005年発行)

豊見城における初期の海外移民
—『豊見城村史』の再検証を中心に—
豊見城市字与根の人生儀礼—産育と婚姻

豊見城市史だより第8号PDF



第9号 (2006年発行)

(史料紹介)
「他村く仕明地・旧地頭地・百姓地叶掛地
く貢租収入帳嘉数村」の若干の分析と
解説

豊見城市史だより第9号PDF



まだま (2007年発行)

第4回世界のウチナーンチュ大会関連のとりくみ
字平良の海軍砲台に伴う軍構築壕群
字高嶺の試掘 —高嶺古島遺跡内—
我那覇丘陵の軍構築壕群
瀬長グスク他範囲確認調査概報
—平成18年度の調査成果—
翁長原遺物散布地C地点における試掘調査
字根差部(前原)の軍構築壕群

まだま第1号PDF



第10号 (2010年発行)

八重山開拓のあゆみ
川原地区について
八重山の開拓村
八重山地域のマラリア
黒糖王国と呼ばれた川原地域
開拓で活躍した水牛
パインで成功を収めた大城満栄
牧畜とオウシマダニ
証言(6名)

豊見城市史だより第10号PDF





第11号 (2012年発行)

南米調査について / 日程及び用務経過
 ブラジル
 ボリビア
 ハワイ

豊見城市史だより第11号PDF



第12号 (2015年発行)

「村史余話・市史余話」
 (1993年6月号～2004年8月号)

豊見城市史だより第12号PDF



企画展のパネル翻訳資料



私たちもトミグスクンチュ
 -We are Tomigusukunchu-

私たちもトミグスクンチュ
 -Nosotros somos Tomigusukunchu-

調査および執筆者

赤嶺 みゆき

豊見城市史だより 第13号

2018（平成30）年3月30日

編集・発行

豊見城市教育委員会生涯学習部文化課（豊見城市史）

〒901-0232 豊見城市字伊良波392番地

TEL (098) 856-3671

FAX (098) 856-1215

印刷 第一印刷株式会社

文化課スタッフ

課長 當銘 純治

班長 与那嶺 豊

主任主事 島袋 幸司 宮城 良真

臨時職員 嘉数 聡

嘱託職員 赤嶺 みゆき 山城 みどり

幸地 千明



Worldwide Tomigusukunchu Welcome Reception



豊見城市史だより
Vol.13

City of Tomigusuku Board of Education
Cultural Affairs Section